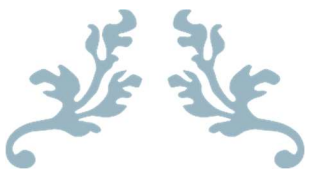


中学生のための

国語読解の土台

本文を根拠に、ことばで考える練習



はじめに

文章を読んでいるときには分かった気がしていたのに、「それはどういうことですか」「なぜですか」「本文の内容に合うものを選びなさい」と聞かれると、答え方に迷うことがあります。

そのときに大切なのは、感覚だけで答えようとせず、本文の言葉に戻ることです。どの言葉が何を指しているのか。前後の文や段落はどのようにつながっているのか。筆者は何を伝えようとしているのか。人物は、どの出来事をどのように受け止めたのか。こうしたことを、一つずつ本文を根拠にして考えていきます。

この教材では、指示語、接続語、段落の役割、理由と具体例、物語文の心情、説明文の中心、記述答案、選択肢、要約を、全十章で段階的に練習します。国語が苦手な人には「どこを見ればよいか」が分かるように、得意な人には「どこまで本文から言えるか」をいっそう精密に考えられるように作りました。

国語は、特別なひらめきだけで決まるものではありません。本文のどこを見るか、どの根拠を結ぶか、問いに必要な内容をどう言葉にするかを重ねることで、読む力は育っていきます。

この一冊を通して、本文をていねいに読み、根拠をもって考え、相手に伝わる言葉へ整える力を育てていきましょう。

この教材の使い方

一 まず本文を読む

いきなり問いに答えようとせず、まず本文全体を読みます。分からない言葉があっても、最初は前後から大まかな意味を考え、文章の流れをつかみましょう。

二 問いが求めるものを確かめる

「なぜ」「どのようなこと」「どのような気持ち」「本文の内容に合うもの」など、何を答える問題かを確認します。字数、抜き出し、本文中の言葉を使うという条件も見落とさないようにします。

三 本文に戻って根拠を探す

指示語なら前に戻り、接続語なら前後を比べます。心情なら、出来事、行動、会話、表情を結びます。文章全体を問う問題では、繰り返される言葉や段落どうしの関係を見ます。

四 解答欄に自分の答えを書く

確認問題は、一つの技能を確かめる短い問題です。練習問題では、離れた箇所を結びつけます。実戦問題では、文章全体を見渡し、いくつかの読み方を組み合わせます。初めから模範解答を見ず、まず自分の答えを書きましょう。

五 解答・解説で読み方を確かめる

正解か不正解かで終わらせません。どこが根拠か、答案に何が必要か、誤った選択肢はどこからずれたかを確認します。記述答案は、模範解答と一字一句同じでなくても、必要な要素が入り、問いに答えていれば正解にできます。

六 ☆自己採点の観点を使う

自分の答案に、必要な要素が入っているか、本文にないことを加えていないか、主語や因果がずれていないかを確認します。足りなかった点を一つだけ書き足してから、次の問題へ進むと効果的です。

目次

第一章	指示語をつかむ	六頁
第二章	接続語で流れを読む	十七頁
第三章	段落の役割を考える	三十頁
第四章	理由と具体例を見分ける	四十三頁
第五章	物語文の心情を読む	五十六頁
第六章	説明文の中心をつかむ	七十頁
第七章	記述答案を組み立てる	八十四頁
第八章	選択肢のまぎらわしさを見抜く	百頁
第九章	短く要約する	百十六頁
第十章	総合問題	百三十一頁

学習の進め方

第一章から第四章では、文章の仕組みを読む力を育てます。第五章では物語文の心情を、第六章では説明文全体の中心を読みます。第七章から第九章では、読み取った内容を記述答案、選択肢、要約の形に整えます。第十章では、これまでの力を組み合わせ、二つの長文に取り組みます。

各章には、例題、確認問題、練習問題、実戦問題があります。難しく感じたときは、一つ前の段階に戻ってかまいません。文章量が増えても、することは同じです。問いを確かめ、本文に戻り、根拠を選びます。

記述問題に取り組むときの注意

記述問題では、文末の形だけでなく、問いに必要な内容をそろえることが大切です。「なぜ」と聞かれたときにも、ただ「から」で終えればよいではありません。原因や理由として必要な事実を本文から選び、結果との関係が分かるように組み立てます。

答えを書いたら、次の四点を確認しましょう。

・問いが求める内容に答えているか。

- ・ 本文に根拠があるか。
- ・ 必要な要素がそろっているか。
- ・ 主語、因果、程度、時点を変えていないか。

選択問題に取り組むときの注意

本文に出てきた言葉が入っているだけでは、正解とは限りません。主語が入れ替わっている、本文の一部だけを全体へ広げている、原因と結果が逆になっている、程度を強めている、時点を混同している、本文にない評価を加えている、といったずれがあります。

「必ず」「完全に」などの強い言葉があっても、それだけで誤りとは決めません。本文が本当にその強さまで述べているか、選択肢の最初から最後まで照らし合わせましょう。

要約に取り組むときの注意

要約は、本文をただ短く切ることではありません。何について述べた文章かという話題、筆者が最も伝えたい中心、中心を支える必要な理由を残します。具体例、同じ内容の繰り返し、細かな説明は、字数に応じて整理します。

短くても中心を欠けば要約になりません。反対に、本文より強く言い切ったり、本文にない結論を加えたりしてもいけません。本文の意味を変えずに、大切な内容を残しましょう。

本文の表記について

まとまった説明文や物語文には、読み取りやすくするため段落番号を付している場合があります。段落番号は教材上の便宜によるものです。また、本教材の本文は、学習目的に合わせて和会塾が制作した文章です。

先生・保護者の方へ

この教材は、中学生の国語読解に必要な基礎を、本文に根拠を求めながら積み上げることを目的としています。指導の際は、正誤だけでなく、どこまでは読めているか、どの根拠を見落としたか、どの要素が不足したかを確かめてください。

記述問題では、表現が模範解答と異なっても、必要な要素を満たし、本文から言える範囲を守っていれば評価できます。誤答を直すときも、答案全体を否定するのではなく、「ここまでは合っている。次にこの要素を足そう」と示すことで、次の一問へ読み方をつなげられます。

（ただ、国語力を本質的に高める観点からは、本文に書いてあるということばかりに依拠するのはもったいないとも考えています。この点は争いもあると思いますし、個人的な見解です。他に公開している高校生向け教材や、ホームページで触れています。）

第一章 指示語をつかむ

この章で学べること

文章を読んでいると、「これ」「それ」「あれ」「このこと」「そのような考え」などの言葉が出てきます。これらは、前に出てきた言葉や内容を指し示す言葉です。このような言葉を、指示語といいます。

指示語が何を指しているか分からないまま読み進めると、文章の内容があいまいになります。反対に、指示語が指す内容を正確につかめると、文章の流れがよく見えるようになります。

指示語を見つけたら、まず本文の少し前に戻ってみましょう。多くの場合、指示語の答えはその前に書かれています。ただし、指示語は一つの言葉だけを指すとは限りません。前の文全体や、前に述べられた内容全体を指していることもあります。

この章では、指示語が何を指しているかを、本文を根拠にして考える練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

朝、家を出るとき、空には厚い雲が広がっていた。私は傘を持っていくかどうか少し迷ったが、荷物が増えるのがいやで、結局持たずに出かけた。しかし、駅に着くころには雨が降り始めた。そのことを後悔しながら、私はかばんを頭の上に乗せて走った。

【問】

傍線部「そのこと」とは、どのようなことですか。三十字以内で説明しなさい。

解答欄

【解き方】

まず、「そのこと」という指示語を見つけます。「そのこと」は、前に出てきた内容を指しています。そこで、傍線部の前を見てみましょう。

本文には、「私は傘を持っていくかどうか少し迷ったが、荷物が増えるのがいやで、結局持たずに出かけた。」とあります。雨が降り始めたあとに後悔しているので、後悔している内容は、ただ「迷ったこと」ではありません。また、「荷物が増えるのがいやだったこと」だけでもありません。

中心は、雨が降りそうだったのに、傘を持たずに出かけたことです。

【模範解答】

雨が降りそうだったのに、傘を持たずに出かけたこと。

【別解例】

傘を持っていくか迷ったのに、結局持たずに出たこと。

【☆自己採点の観点】

- ・「傘」にふれているか。
- ・「持たずに出かけた」という内容が入っているか。
- ・「雨が降ったこと」だけを答えていないか。

確認問題 短い文で確認する

次の各文を読んで、傍線部の指示語が何を指しているか答えなさい。

(一)

【本文】

弟は、昨日から楽しみにしていた遠足に出かけた。朝早く起きて、自分で弁当をかばんに入れ、何度も集合時間を確認していた。その様子を見て、母は思わず笑った。

【問】

「その様子」とは、どのような様子ですか。三十字以内で説明しなさい。

解答欄

(二)

【本文】

私は、友人に借りた本を読み終えると、すぐに感想を書いた。おもしろかった場面や、心に残った言葉を忘れないようにするためだ。そうすることで、読んだ内容が自分の中に残りやすくなる。

【問】

「そうすること」とは、どのようなことですか。二十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(三)

【本文】

町の小さな図書館には、新しい本がたくさんあるわけではない。けれども、司書の人が一冊一冊をよく知っていて、読む人に合った本をすすめてくれる。私は、ここにこの図書館のよさがあると思う。

【問】

「そこ」とは、どのようなところですか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

練習問題 少し長い文章で考える

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、小学生のころから作文が苦手だった。何を書けばよいのか分からず、原稿用紙を前にすると、いつも手が止まってしまった。

ある日、先生が「まずは、今日あったことを一つだけ書いてみよう」と言った。私は、その日の朝に見た犬のことを書いた。駅前で、白い犬が飼い主を見上げて歩いていた。ただそれだけのことだったが、書き始めると、犬のしっぽの動きや、飼い主の歩く速さまで思い出された。

そのとき私は、作文とは、特別な出来事を書くことだけではないのだと気づいた。自分が見たものを、もう一度よく見詰め直すこと。それもまた、作文の大切な始まりなのだと思うた。

【問一】

傍線部「それだけ」とは、どのようなことですか。本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

解答欄

【問二】

傍線部「それ」とは、どのようなことですか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、作文では必ず特別な出来事を書かなければならないと考えようになった。

イ 筆者は、身近な出来事を見詰め直すことも作文の始まりになると気づいた。

ウ 筆者は、作文が苦手だったので、犬について書くことをやめた。

エ 筆者は、先生に言われて、作文よりも観察の勉強を始めた。

答（ ）

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

昼休みになると、教室は急ににぎやかになる。弁当を広げる人、友人の席へ移動する人、外へ遊びに行く人。それぞれが、自分の時間を始める。

私はたいてい、自分の席で本を読んでいる。別に、だれとも話したくないわけではない。ただ、午前中の授業で頭がいっぱいになったあと、少しだけ静かな時間がほしくなるのだ。

ある日、隣の席の佐伯さんが、「何を読んでいるの」と声をかけてきた。私は少し驚いて、本の表紙を見せた。佐伯さんは、「それ、前に読んだことがある」と言って、自分の好きな場面を話し始めた。

私は、その本を一人で読んでいるつもりだった。けれども、佐伯さんの話を聞いているうちに、同じ本でも、人によって心に残るところが違うのだと分かった。そのことが、私には少しおもしろかった。

次の日、私は読み終えた本を持って、佐伯さんに話しかけた。「昨日の場面、もう一度読み返してみたよ。」そう言うと、佐伯さんはうれしそうに笑った。

本を読む時間は、私にとって静かな時間だった。けれども、だれかと同じ本について話すことで、静かな時間の中に、別の広がりが生まれることもある。私は、それを初めて知った気がした。

【問一】

「それぞれが、自分の時間を始める」とありますが、「それぞれ」とは、どのような人たちを指していますか。本文の内容をもとに三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

「それ、前に読んだことがある」とありますが、「それ」とは何を指していますか。本文中から十字以内で抜き出しなさい。

解答欄

【問三】

傍線部「そのこと」とは、どのようなことですか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

傍線部「それ」とは、どのようなことですか。五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 私は、昼休みに本を読むのは友人と話すためだと考えていた。

イ 私は、佐伯さんに声をかけられ、本を読むことが嫌いになった。

ウ 私は、同じ本について人と話すことで、読書の時間に新しい広がりが生まれると感じた。

エ 私は、佐伯さんと話したことで、昼休みには本を読まないほうがよいと思った。

答（ ）

解答・解説

確認問題

(一)

【模範解答】

遠足を楽しみにし、朝から自分で準備を進めている様子。

【解説】

「その様子」は、直前の内容を指しています。弟は「朝早く起きて」「自分で弁当をばんに入れ」「何度も集合時間を確認して」います。つまり、遠足を楽しみにして準備している様子です。

【☆自己採点の観点】

- ・「遠足を楽しみにしている」が入っているか。
- ・「自分で準備している」が入っているか。
- ・「母が笑ったこと」と答えていないか。

(二)

【模範解答】

読み終えた本の感想をすぐに書くこと。

【解説】

「そうすること」は、前の文の行動を指しています。本文では、「友人に借りた本を読み終えると、すぐに感想を書いた」とあります。したがって、「そうすること」は、読み終えた本の感想をすぐに書くことです。

【☆自己採点の観点】

- ・「感想を書く」が入っているか。
- ・「すぐに」という内容が入っているか。
- ・「本を読むこと」だけになっていないか。

(三)

【模範解答】

司書の人の本をよく知り、読む人に合った本をすすめてくれるところ。

【解説】

「そこ」は場所を表しているように見えますが、ここでは単なる場所ではなく、この図書館のよさがある部分を指しています。直前には、「司書の人が一冊一冊をよく知っていて、読む人に合った本をすすめてくれる」とあります。この内容全体をまとめて答えます。

【☆自己採点の観点】

- ・「司書の人」にふれているか。
- ・「読む人に合った本をすすめる」が入っているか。
- ・「町の小さな図書館」とだけ答えていないか。

練習問題

問一

【模範解答】

白い犬が飼い主を見上げて歩いていた

【解説】

「それだけ」は、直前に書かれた内容を指しています。ここでは、作文に書いた内容である「駅前で、白い犬が飼い主を見上げて歩いていた」ことを指しています。設問は「本文中から二十字以内で抜き出さない」なので、本文中の「白い犬が飼い主を見上げて歩いていた」を抜き出します。

問二

【模範解答】

自分が見たものを、もう一度よく見つめ直すこと。

【解説】

「それ」は、直前の文を指しています。直前には、「自分が見たものを、もう一度よく見つめ直すこと。」とあります。これが「作文の大切な始まり」だと述べられています。

【☆自己採点の観点】

- ・「自分が見たもの」が入っているか。
- ・「もう一度よく見詰め直す」が入っているか。
- ・「犬のことを書くこと」だけになっていないか。

問三

【正答】

ア

【解説】

本文では、筆者は「作文とは、特別な出来事を書くことだけではない」と気づいています。そして、「自分が見たものを、もう一度よく見詰め直すこと」も作文の始まりだと考えています。したがって、アが正解です。

実戦問題

問一

【模範解答】

弁当を広げる人や、友人の席へ移動する人、外へ遊びに行く人たち。

【解説】

「それぞれ」は、直前に並べられた人たちを指しています。本文には、「弁当を広げる人、友人の席へ移動する人、外へ遊びに行く人」とあります。この三つをまとめて答えます。

【☆自己採点の観点】

- ・三種類の人たちにふれているか。
- ・「昼休みの生徒たち」だけで終わっていないか。
- ・本文にない人を加えていないか。

問二

【模範解答】

本

【解説】

佐伯さんは、筆者が見せた本の表紙を見て、「それ、前に読んだことがある」と言っています。したがって、「それ」は筆者が読んでいた本を指しています。

【別解例】

読んでいた本

※十字以内であれば、こちらもよいです。

問三

【模範解答】

同じ本でも、人によって心に残るところが違うということ。

【解説】

「そのこと」は、直前の内容を指しています。直前には、「同じ本でも、人によって心に残るところが違うのだと分かった」とあります。したがって、その内容をまとめて答えます。

【別解例】

同じ本を読んでも、心に残る場面は人によって違うということ。

【☆自己採点の観点】

- ・「同じ本」にふれているか。
- ・「人によって違う」が入っているか。
- ・「佐伯さんが話しかけてきたこと」だけになっていないか。

問四

【模範解答】

だれかと同じ本について話すことで、一人で読む時間にも新しい広がりが生まれること。

【解説】

最後の「それ」は、直前に述べられた内容を指しています。本文では、「だれかと同じ本について話すことで、静かな時間の中に、別の広がり生まれることもある」と述べられています。筆者は、それを初めて知ったと感じています。

【別解例】

同じ本について人と話すことで、静かに読む時間にも別の広がり生まれること。

【☆自己採点の観点】

- ・「同じ本について話す」が入っているか。
- ・「別の広がり生まれる」が入っているか。
- ・「本を読むことは静かだ」という内容だけになっていないか。

問五

【正答】

ウ

【解説】

本文の最後で、筆者は「だれかと同じ本について話すことで、静かな時間の中に、別の広がり生まれることもある」と述べています。したがって、ウが正解です。

アは、筆者が昼休みに本を読む理由を取り違えています。筆者は、友人と話すためではなく、静かな時間がほしくて本を読んでいた。イは、「本を読むことが嫌いになった」とある点が本文に合いません。エは、「本を読まないほうがよい」とある点が本文に合いません。

この章のまとめ

指示語を見つけたら、すぐに答えようとせず、まず本文の前に戻りましょう。指示語が指すものは、一つの言葉の場合もあれば、前の文全体や内容全体の場合もあります。

大切なのは、なんとなく考えることではありません。本文の言葉を根拠にして、「この指示語は、ここを指している」と確かめることです。

指示語を正確につかむ力は、国語の読解すべての土台になります。

第二章 接続語で流れを読む

この章で学べること

文章の中にある「だから」「しかし」「たとえば」「つまり」「また」などの言葉は、文と文、段落と段落の関係を示します。このような言葉を接続語といいます。

接続語を見ると、筆者が考えをどの方向へ進めているかが分かります。「しかし」の後には前と異なる内容が来ますが、単純な反対とは限りません。前の内容をいったん認めてから修正したり、予想外の結果を示したりする場合があります。「たとえば」は具体化、「つまり」は言い換えやまとめ、「また」は別の内容の追加を示します。

空欄に語を入れるだけでなく、接続語の前後を自分の言葉で言い表すと、文章の流れを確かめられます。この章では、逆接、因果、具体化、言い換え、追加、転換を区別しながら読みます。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、朝早く起きるのがあまり得意ではない。目覚まし時計をかけても、すぐには起きられないことが多い。しかし、遠足の日だけは違った。その日は、目覚まし時計が鳴る前に自然と目が覚めた。

【問】

「しかし」の前後で、内容はどのように変わっていますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【考える順序】

- 一 前には、ふだんは早起きが苦手だと書かれている。
- 二 後には、遠足の日には目覚ましより前に目が覚めたと書かれている。

三 「ふだん」と「遠足の日」を対比させて、一文にまとめる。

【模範解答】

ふだんは早起きが苦手だが、遠足の日は自然に目が覚めた。

【別解例】

いつもは朝早く起きられないが、遠足の日だけは早く起きられた。

【根拠】

「朝早く起きるのがあまり得意ではない」と「遠足の日だけは違った」以下を比べます。

【必要な要素】

- ・ふだんは早起きが苦手であること。
- ・遠足の日は自然に早く目が覚めたこと。

【組み立て】

前の内容と後の内容を「だが」などで結び、対比が分かる形にします。

【☆自己採点の観点】

- ・前後の両方を書けたか。
- ・「遠足の日は違った」だけで終わっていないか。

確認問題 接続語の働きを一つずつ確かめる

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

私は、漢字を覚えるのが苦手だった。何度書いても、次の日には忘れてしまうことが多かった。そこで、漢字だけをばらばらに覚えるのではなく、短い文の中で使いながら覚えることにした。

【問】

「そこで」は、前後の内容をどのようにつないでいますか。三十字以内で説明しなさい。

(二)

この公園には、大きな遊具はない。広いグラウンドもない。しかし、木の下には静かに本を読めるベンチがあり、夕方になると近所の人が自然に集まってくる。

【問】

「しかし」の後には、どのような内容が述べられていますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(三)

読書には、知らない世界にふれる楽しさがある。たとえば、昔の人の暮らしを描いた物語を読むと、自分とは違う時代の考え方や生活を想像することができる。

【問】

「たとえば」の後の文は、前の文に対してどのような働きをしていますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(四)

川の水は、いつも同じ速さで流れているわけではない。雨の後には水量が増え、流れも速くなる。つまり、川の様子を知るには、その日の天気だけでなく、少し前の天気も見必要がある。

【問】

「つまり」の後の文は、前の内容をどのように受けていますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

練習問題 離れた箇所を結びつける

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、ノートをきれいに書くことが大切だと思っていた。色を使い分け、文字の大きさもそろえ、見た目には分かりやすいノートを作っていた。

(A)、テスト前に見返してみると、内容があまり頭に残っていないことに気づいた。きれいにまとめることに気を取られ、授業中に先生が強調した理由や、自分が疑問に思ったことを書き残していなかったからだ。

それから私は、ノートの書き方を少し変えた。もちろん、後で読めるように整えることは大事だ。(B)、それ以上に、授業中に考えたことや、分からなかったところを残すようにした。

【問一】

空欄Aに入る接続語として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア だから

イ しかし

ウ たとえば

エ さらに

答()

【問二】

空欄Bに入る接続語として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア つまり

イ ところが

ウ けれども

エ そして

答()

【問三】

筆者は、ノートの書き方についてどのように考えるようになりましたか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

実戦問題 文章全体の流れを読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 夜の道路や公園を照らす光は、私たちの暮らしを支えている。足元の段差を見えやすくし、人が通っていることを知らせる光は、安全のために欠かせない。

(二) しかし、明るければ明るいほどよいとは限らない。必要な場所を越えて空や木々まで照らす光は、星を見えにくくするだけでなく、夜に活動する生き物の暮らしにも影響を与える。このような問題は、光害と呼ばれている。

(三) たとえば、夜の灯りに集まり続けた昆虫は、食べ物を探したり、卵を産む場所へ移動したりする時間を失うことがある。人には便利な光でも、別の生き物には進む方向を迷わせる光になりうるのである。

(四) だからといって、夜の灯りをすべて消せばよいわけではない。必要な場所と時間を選び、光が上や横へ広がらないように向きを調整すれば、安全を保ちながら、空や生き物への影響を小さくできる。

(五) また、明るさの感じ方は一様ではない。暗すぎる道に不安を感じる人がいる一方で、強い光のまぶしさによって、かえって足元が見えにくくなる人もいる。どのくらいの光を、どこへ向けるかを考えるには、使う人の違いにも目を向ける必要がある。

(六) つまり、夜のよい照明とは、光の量をただ増やしたものではない。安全、生き物、星空、そして利用する人の見え方を考え、必要な光が必要な場所へ届ける照明なのである。

【問一】

第二段落の「しかし」は、前後の内容をどのようにつないでいますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第三段落の昆虫の例は、何を説明するために挙げられていますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

第四段落の「だからといって」は、前の内容をどのように受けていますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

第五段落は、第四段落までの内容に何を加えていますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

本文で筆者が最も伝えたいことを、五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問六】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

- ア 夜の安全を守るためには、周囲への影響にかかわらず、光をできるだけ強くするべきだ。
- イ 光害をなくすには、道路や公園の灯りをすべて消し、夜は外出しないようにするべきだ。
- ウ 夜の照明は、安全や環境、人の見え方を考え、必要な場所へ適切に向けることが大切だ。
- エ 夜の灯りによる影響を受けるのは昆虫だけであり、人の見え方や星空とは関係がない。

答（ ）

解答・解説

確認問題

(一)

【模範解答】

漢字を忘れやすい問題を受け、覚え方を変えたこと。

【根拠と考え方】

「そこで」は、前の問題や状況を受けて、その対応を示します。忘れやすいという問題に対し、文の中で使って覚える方法へ変えています。

【☆自己採点の観点】

・前の「忘れやすい」という問題と、後の「覚え方を変える」という対応の両方を書けたか。

(二)

【模範解答】

大きな遊具はないが、静かに過ごせ、人も集まるよさがあること。

【根拠と考え方】

前には公園にないもの、後には公園にある別のよさが書かれています。「しかし」は、前の不足を認めたとうえで評価を変えています。

【☆自己採点の観点】

・「静かに過ごせる」「人が集まる」という後の内容をまとめたか。

(三)

【模範解答】

読書で知らない世界にふれられることを、具体例で説明している。

【根拠と考え方】

昔の暮らしを描いた物語は、前の「知らない世界にふれる楽しさ」を分かりやすくする例です。

【☆自己採点の観点】

・前の内容と「具体例」という働きを書けたか。

(四)

【模範解答】

川の流れには前の天気も関わると、前の内容をまとめている。

【根拠と考え方】

雨の後は水量と流れが変わるという説明を受け、「その日の天気だけでなく、少し前の天気も見る」と言い換えてまとめています。

【☆自己採点の観点】

・「前の天気も関わる」と「まとめ」の両方を書けたか。

練習問題

問一

【正答】

イ

【根拠と考え方】

前には見た目の整ったノートを作っていたこと、後には内容が頭に残っていなかったことがあります。予想に反する結果なので「しかし」が入ります。

【誤答のずれ】

アは因果が逆です。ウは具体例を導く語ですが、後は具体例ではありません。エは同じ方向への追加になり、前後の転換を表せません。

問二

【正答】

ウ

【根拠と考え方】

ノートを整える大切さを認めたうえで、それ以上に考えや疑問を残すことを重視しています。「けれども」が適切です。

【誤答のずれ】

アは言い換え、イは予想外の事実への転換、エは単純な追加を示すため、ここでの関係とは合いません。

問三

【模範解答】

見た目を整えるだけでなく、考えたことや疑問も残すべきだと考えた。

【別解例】

読みやすさに加え、授業中の考えや分からない点も記すようになった。

【根拠】

第一段落の以前の書き方と、第三段落の「それ以上に」以下を比べます。

【必要な要素】

- ・見た目を整えるだけではないこと。
- ・考えたことや疑問を残すこと。

【組み立て】

以前の考えと新しい考えを「だけでなく」で結びます。

【☆自己採点の観点】

- ・ノートを整えること自体を否定していないか。

実践問題

問一

【模範解答】

夜の光は安全に必要なだが、強すぎる光には別の問題もあると転じている。

【根拠と考え方】

第一段落は光の必要性、第二段落は過剰な光の影響です。必要性を否定せず、別の面へ流れを変えています。

【☆自己採点の観点】

- ・安全への必要性と、強すぎる光の問題の両方を書けたか。

問二

【模範解答】

人に便利な夜の光が、生き物の行動を妨げる場合があること。

【別解例】

必要以上の灯りが、夜に活動する昆虫の暮らしへ影響すること。

【根拠】

昆虫が灯りに集まり、食べ物や産卵場所を探す時間を失う部分です。

【必要な要素】

- ・人には便利な光であること。
- ・生き物の行動を妨げる場合があること。

【☆自己採点の観点】

- ・昆虫の出来事だけでなく、何を説明する例かを一般化したか。

問三

【模範解答】

光の害を認めても、灯りを全部消す結論にはならないと修正している。

【根拠と考え方】

前には光害が述べられていますが、後には灯りをすべて消すのではなく、場所や向きを調整する方法が示されています。

【☆自己採点の観点】

- ・問題の指摘と「全部消すわけではない」という修正を結べたか。

問四

【模範解答】

環境への影響に加え、光の見え方には人による違いがあると加えている。

【根拠と考え方】

第四段落までは安全と環境が中心です。第五段落では、暗さへの不安やまぶしさなど、利用者による違いを新たに示しています。

【☆自己採点の観点】

- ・「人による見え方の違い」という追加内容を書けたか。

問五

【模範解答】

夜の照明は、安全や環境、人の見え方を考え、必要な光を適切な場所へ向けるべきだということ。

【別解例】

光は多ければよいのではなく、さまざまな影響を考えて必要な場所へ届けることが大切だということ。

【根拠】

各段落で繰り返される安全、環境、利用者の見え方と、第六段落のまとめです。

【必要な要素】

- ・ 光の量を増やすだけではないこと。
- ・ 安全、環境、人の見え方を考えること。
- ・ 必要な場所へ光を届けること。

【組み立て】

「何ではないか」と「何が大切な」を対比させてまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・ 灯りをすべて消す主張にしていなにか。
- ・ 三つの観点のうち二つ以上と、光の届け方を書けたか。

問六

【正答】

ウ

【根拠と考え方】

ウは、本文全体で示された安全、環境、人の見え方と、必要な場所へ光を向けるという結論を過不足なくまとめています。

【誤答のずれ】

アは、光を強くするほど安全だと程度を広げています。イは、調整するという本文の結論を「すべて消す」へ変えています。エは、影響の範囲を昆虫だけに狭めています。

この章のまとめ

接続語を見つけたら、その語だけで意味を決めず、前後の内容を一文ずつ確かめます。

- ・ 逆接は、単純な反対だけでなく、前を認めたうえでの修正や予想外の結果も示す。
- ・ 因果では、どちらが原因で、どちらが結果かを確かめる。
- ・ 具体化、言い換え、追加は、後の内容が前に対して何をしているかで見分ける。

接続語が示す関係を自分の言葉で説明できると、文章全体の流れも読みやすくなります。

第三章 段落の役割を考える

この章で学ぼう

文章はいくつかの段落に分かれています。一つの段落には内容があり、同時に文章全体の中での役割があります。話題を示す段落、問題を投げかける段落、前の考えに別の見方を示す段落、理由や具体例を示す段落、最後に考えをまとめる段落などです。

「何を書いてあるか」と「何のために書かれているか」は同じではありません。地下鉄の路線図について書かれた段落でも、その役割は、地図の特徴を説明する具体例かもしれません。段落の役割を答えるときは、前後の段落に対して何をしているかまで考えます。

この章では、段落ごとの内容を短くつかんだうえで、文章の見取り図を作るように役割を読みます。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私は、あいさつは人と人との間に小さな道を作るものだと思う。朝、教室に入ったときに「おはよう」と言われるだけで、少し安心することがある。

(二) もちろん、あいさつをしたからといって、すぐに親しくなれるわけではない。声が小さかったり、相手が気づかなかつたりすることもある。それでも、あいさつは「あなたがそこにいることに気づいています」という合図になる。

(三) だから、あいさつはただの習慣ではない。相手との関係を始めたり、続けたりするための、小さくても大切な言葉なのだ。

【問】

第二段落は、文章全体の中でどのような役割をしていますか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【考える順序】

- 一 第二段落の内容は、あいさつの限界と、それでも残る意味である。
- 二 第一段落の考えと第三段落の結論の間に置かれている。
- 三 前の考えを単純に繰り返すのではなく、反対になりそうな点を認めて考えを確かかにしている。

【模範解答】

あいさつの限界を認めたとうえで、それでも意味があると説明している。

【別解例】

すぐ親しくなれない場合も示し、あいさつの意味を確かかにしている。

【根拠】

「もちろん」以下の限界と、「それでも」以下の意味を結びます。

【必要な要素】

- ・ 限界や反対になりそうな点を認めること。
- ・ それでも意味があると説明すること。

【組み立て】

「何を認め」「どの考えを支えたか」という形で表します。

【☆自己採点の観点】

- ・ 第二段落の内容だけでなく、前後への働きを書けたか。

確認問題 内容と役割を区別する

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 博物館の展示では、できるだけ多くの資料を並べたほうが学びやすいと思われるかもしれない。実物をたくさん見られることには、たしかに大きな魅力がある。

(二) けれども、資料が多すぎると、どこに注目すればよいか分からなくなることもある。年代や用途の近い資料をまとめ、短い説明を添えることで、一つ一つの違いがかえって見えやすくなる。

(三) 展示で大切なのは、資料の数だけではない。見た人が比べたり問いを持ったりできるように、資料どうしの関係を示すことも必要なのである。

【問一】

第一段落には、どのような内容が書かれていますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第二段落は、第一段落に対してどのような役割をしていますか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

第三段落は、文章全体の中でどのような役割をしていますか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

練習問題 段落どうしの関係を読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 町の広場に置かれたベンチは、ただ座るための道具に見える。歩き疲れた人が休んだり、待ち合わせをしたりするために使われる。

(二) ところが、ベンチの向きや間隔によって、広場での過ごし方は変わる。正面を向いたベンチは景色を見るのに向いている。一方、二つのベンチを少し斜めに置くと、知らない人どうしても視線を合わせすぎずに話しやすくなる。

(三) また、ベンチの近くに木陰や小さな机があれば、昼食を取る人や本を読む人も集まる。座る場所の周りに何があるかによって、短い休憩の場所にも、長く過ごす場所にもなる。

(四) 広場のベンチは、人の動きを止めるだけではない。置き方や周りの環境を通して、人と場所との関係を作る小さな仕組みなのである。

【問一】

第一段落は、何を文章の出発点として示していますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第二段落は、第一段落の見方をどのように広げていますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

第三段落は、第二段落に対してどのような内容を加えていますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

第四段落の役割として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア ベンチは歩き疲れた人だけが使うものだと、第一段落の見方へ戻している。
イ 木陰の作り方を詳しく説明し、広場からベンチをなくすよう求めている。
ウ 前の具体的な説明を受け、ベンチが人と場所の関係を作るとまとめている。
エ ベンチの向きは人の行動に影響しないと、それまでの説明を否定している。

答（ ）

実戦問題 文章の見取り図を作る

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 地図は、土地の様子をそのまま小さく写したものではない。実際の町には、道路、建物、木、看板、人の流れなど、数えきれないほどの情報がある。それらをすべて同じ細かさで一枚に入れば、かえって必要なものを見つげにくくなる。

(二) そこで地図は、目的に合わせて情報を選ぶ。山を歩く人の地図には高さや道の傾きが必要だが、店を探す人の地図では、通りの名前や建物の位置が手が必要になる。何を残すかは、地図を使う目的によって変わる。

(三) 地下鉄の路線図は、その分かりやすい例である。実際の線路の曲がり方や駅どうしの正確な距離は、多くの場合、省かれている。その代わり、どの路線がどの駅で交わり、どちらへ進めばよいかが見つけやすく示されている。

(四) 細かな情報を省くと、正確ではなくなるように思えるかもしれない。たしかに、路線図だけでは地上の道を歩くことは難しい。しかし、電車を乗り換えるという目的に限れば、省略によって必要な関係がはっきりする。

(五) 地図を読むときには、書かれているものだけでなく、何が省かれているかにも目を向きたい。省略は、情報が足りないという欠点とは限らない。目的に必要な情報を選び、見えやすくするための工夫にもなるからだ。

【問一】

第一段落は、文章全体の中でどのような役割をしていますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第二段落は、第一段落で示された問題に対し、何を説明していますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

第三段落の役割を、四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

第四段落は、第三段落までの説明に対してどのような働きをしていますか。五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

第五段落の役割として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

- ア 地図には現実の情報をすべて入れるべきだと、文章の最初の考えを繰り返している。
- イ 地下鉄の路線図だけが正しい地図だと、具体例の範囲をすべての地図へ広げている。
- ウ 地図の省略を欠点として退け、正確な距離だけを書くよう結論づけている。
- エ それまでの説明を受け、省略も目的に必要な情報を見やすくする工夫だとまとめている。

答（ ）

【問六】

五つの段落の流れを、「問題提起」「原則」「具体例」「反対意見への応答」「まとめ」の語をすべて使い、七十字以内で説明しなさい。

解答欄

解答・解説

確認問題

問一

【模範解答】

博物館では多くの実物資料を見られることに魅力があるという内容。

【根拠と考え方】

第一段落だけの内容を聞かれています。後の「多すぎる場合の問題」まで入れません。

【☆自己採点の観点】

- ・「多くの資料」「実物を見る魅力」を書けたか。

問二

【模範解答】

資料が多い場合の問題を示し、整理して見せる必要を説明している。

【別解例】

資料の多さという魅力に対し、多すぎると見にくい面も示している。

【根拠】

「けれども」の前後と、第二段落後半の整理方法を見ます。

【必要な要素】

- ・ 第一段落への別の見方。
- ・ 整理して見せる必要。

【☆自己採点の観点】

- ・ 第二段落の内容だけでなく、第一段落との関係を書けたか。

問三

【模範解答】

前の説明を受け、展示では資料の関係を示すことも必要だとまとめている。

【根拠と考え方】

第三段落は「資料の数だけではない」と前を受け、文章全体の結論を示します。

【☆自己採点の観点】

- ・「まとめ」という働きと、まとめた内容の両方を書けたか。

練習問題

問一

【模範解答】

ベンチは休憩や待ち合わせのために座る道具だという見方。

【根拠と考え方】

第一段落は、一般に思い浮かべやすいベンチの役割を文章の出発点として示しています。

【☆自己採点の観点】

- ・後の段落の「置き方による変化」を混せていないか。

問二

【模範解答】

ベンチの向きや間隔によって、人の過ごし方や話しやすさが変わると示している。

【別解例】

座る道具という見方に、置き方が人の行動へ影響する面を加えている。

【根拠】

正面向きと斜め向きのベンチの違いです。

【必要な要素】

- ・置き方の違い。
- ・人の過ごし方への影響。

【☆自己採点の観点】

- ・第二段落が第一段落の見方を広げる働きを書けたか。

問三

【模範解答】

ベンチの置き方に加え、木陰など周囲の環境も過ごし方を変えると示している。

【根拠と考え方】

第二段落は向きと間隔、第三段落は木陰や机など周囲の環境を扱います。「また」は別の要因を追加しています。

【☆自己採点の観点】

- ・何に何を加えたかを明確にしたか。

問四

【正答】

ウ

【根拠と考え方】

第四段落は、向き、間隔、周囲の環境という具体的な説明を受け、ベンチを「人と場所との関係を作る仕組み」とまとめています。

【誤答のずれ】

アは役割の範囲を休憩だけへ狭めています。イは木陰の説明を文章全体の目的へ取り違えています。エは前の説明と反対です。

実戦問題

問一

【模範解答】

現実の情報をすべて地図に入れると、必要なものが見つけにくいと問題を示す役割。

【根拠と考え方】

第一段落は、地図が現実の単なる縮小ではないという話題と、情報を入れすぎる問題を示します。

【☆自己採点の観点】

- ・「情報が多すぎる問題」と「問題を示す役割」を書けたか。

問二

【模範解答】

地図は使う目的に合わせ、必要な情報を選んで示すという原則を説明している。

【根拠と考え方】

山歩きと店探しの違いを通して、「何を残すかは目的で変わる」と述べています。

【☆自己採点の観点】

- ・ 具体例だけでなく、共通する原則を書けたか。

問三

【模範解答】

地下鉄の路線図を具体例として、目的に合わせた省略の仕方を説明している。

【別解例】

前段落の原則を、距離を省いて乗り換えを示す路線図の例で確かめている。

【根拠】

「その分かりやすい例である」という文と、路線図で残す情報・省く情報です。

【必要な要素】

- ・ 地下鉄の路線図が具体例であること。
- ・ 目的に応じた省略を説明すること。

【☆自己採点の観点】

- ・ 路線図の内容だけで終わらず、何の例かを書けたか。

問四

【模範解答】

省略は不正確だという見方を認め、目的によっては分かりやすさを生むと答えている。

【別解例】

情報を省くことへの反対意見を取り上げ、乗り換えには有効だと応答している。

【根拠】

「正確ではなくなるように思える」に対し、「目的に限れば」と答える部分です。

【必要な要素】

- ・省略への反対意見。
- ・目的によっては省略が役立つという応答。

【☆自己採点の観点】

- ・第四段落を単なる具体例とせず、反対意見への応答として読めたか。

問五

【正答】

エ

【根拠と考え方】

第五段落は、前の原則、具体例、反対意見への応答を受け、省略を目的に必要な情報を見やすくする工夫だとまとめます。

【誤答のずれ】

アは第一段落の問題と反対です。イは地下鉄の例をすべての地図へ広げています。ウは省略を欠点だけとしており、結論と反対です。

問六

【模範解答】

情報を入れすぎる問題提起から、目的で選ぶ原則、路線図の具体例、反対意見への応答を経て、省略の意味をまとめる流れ。

【別解例】

問題提起の後に地図の原則と具体例を示し、反対意見への応答を通して、省略も工夫だとまとめる流れ。

【根拠】

第一段落から第五段落まで、それぞれが担う役割を順に並べます。

【必要な要素】

- ・指定された五つの語。

- ・段落の順序に合う流れ。

【組み立て】

「Aから、B、C、Dを経て、Eへ」という形で全体を一文にします。

【☆自己採点の観点】

- ・五つの語をすべて使ったか。
- ・内容の要約ではなく、文章の組み立てを説明したか。

この章のまとめ

段落の役割を考えるときは、まず内容を短くつかみ、次に前後との関係を見ます。

- ・話題や問題を示しているか。
- ・原則、理由、具体例、比喩のどれか。
- ・反対意見を取り上げ、それに答えているか。
- ・それまでを受けて結論をまとめているか。

段落の役割を順に並べられると、文章全体の見取り図ができます。

第四章 理由と具体例を見分ける

この章で学ぶこと

説明文では、筆者の考えだけでなく、その考えを支える理由や、内容を分かりやすくする具体例が書かれます。主張は「何を伝えたいか」、理由は「なぜそう言えるか」、具体例は「どのような場合か」を示します。

「なぜなら」「たとえば」がなくても、働きは内容から判断できます。また、具体例が何の例なのかを考えなければ、話題の一部だけを文章の中心だと取り違えてしまいます。

この章では、主張、理由、具体例を区別し、何が何を支えているかを読みます。理由を問われたときに具体例だけを答えることや、主張だけを書いて理由を欠くことに注意します。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

公園の落ち葉は、すべてをすぐに片づければよいとは限らない。通路の落ち葉は滑りやすいため取り除く必要があるが、木の根元に少し残すと、土の乾燥を防ぎ、小さな生き物のすみかにもなる。たとえば、落ち葉の下ではダンゴムシなどが葉を細かくし、それが土へ戻るのを助けている。場所を選んで落ち葉を残すことは、公園の土を守ることにつながる。

【問】

筆者が、落ち葉を場所によって残すことに意味があると考え理由を、四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【考える順序】

- 一 主張は「場所を選んで落ち葉を残すことには意味がある」である。
- 二 理由は「土の乾燥を防ぎ、小さな生き物のすみかになる」である。
- 三 ダンゴムシの話は理由を具体的に示す例なので、理由を問う答案では細部をまとめる。

【模範解答】

木の根元の落ち葉は、土の乾燥を防ぎ、小さな生き物のすみかになるから。

【別解例】

残した落ち葉が土を守り、生き物が暮らす場所にもなるから。

【根拠】

第二文の「木の根元に少し残すと」以下です。

【必要な要素】

- ・土の乾燥を防ぐこと。
- ・小さな生き物のすみかになること。

【組み立て】

二つの働きを並べ、主張を支える理由としてまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・ダンゴムシという具体例だけで終わっていないか。
- ・通路にも落ち葉を残すという意味にしていないか。

確認問題 主張・理由・具体例を一つずつ確かめる

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

保温びんは、入れ物を厚くするだけで温度を保っているわけではない。内側と外側の間に、熱を伝えにくい空間を作っているから、温かいものは冷めにくく、冷たいものは温まりにくいのである。

【問】

保温びんが中身の温度を保ちやすい理由を、三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(二)

目で見えない場所の様子を、音の返り方から知ることができる。コウモリは高い音を出し、物に当たって返ってくる音を受け取ること、暗い場所でも障害物や獲物の位置を確かめている。

【問】

コウモリの例は、何を説明するために挙げられていますか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

(三)

同じ言葉でも、言い方によって相手への伝わり方は変わる。声の大きさや速さ、表情によって、言葉の印象が変わるからだ。たとえば、「大丈夫」という言葉でも、穏やかに言えば安心させる言葉になり、冷たく言えば突き放す言葉のように聞こえることがある。

【問】

この文章で筆者が最も伝えたいことを、三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(四)

商店街の共同の荷さばき場は、一つの店だけのために作るものではない。配達のが店ごとに道路へ止まると、通行しにくくなる。決まった場所で荷物を受け取れば、店の作業を進めながら、歩く人の道も確保しやすくなる。

【問】

共同の荷さばき場を設ける理由を、四十字以内で説明しなさい。

解答欄

練習問題 何が何を支えているかを読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

古い石垣のすき間は、ただ直し残された部分ではない。小さなすき間には土がたまり、風を避けられるため、草や昆虫が暮らす場所になることがある。

石垣を新しく積み直し、すべてのすき間を固めれば、形は整う。しかし、そこに暮らしていた生き物の場所は失われる。たとえば、日当たりのよい石垣では、すき間から生えた草に小さなハチが訪れ、石の陰ではトカゲが体を休めることがある。

もちろん、崩れる危険のある石垣は直さなければならない。大切なのは、安全を確かめながら、残せるすき間まで一様にふさがないことである。古い構造を守ることが、地域に残る小さな自然を守ることにもつながる。

【問一】

筆者が、石垣のすき間に意味があると考える理由を、四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第二段落の具体例は、何を説明するために挙げられていますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

筆者は、石垣の修理についてどのように考えていますか。五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 石垣は古いほど安全なので、崩れる危険があっても修理しないほうがよい。

イ 安全を確かめながら残せるすき間を守ることは、小さな自然を守ることにもなる。

ウ 石垣のすき間は見た目が悪いため、生き物に関係なくすべて固めるべきだ。

エ 石垣に暮らす生き物はトカゲだけなので、草や昆虫のことを考える必要はない。

答（ ）

実戦問題 主張を支える理由と例を結ぶ

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 公園の草地は、短くそろっているほど手入れが行き届いて見える。広く歩いたり、ボールで遊んだりする場所では、草を短く刈ることが必要である。

(二) 一方で、公園のすべてを同じ高さに刈る必要はない。人があまり通らない一角の草を少し長く残すと、昆虫が身を隠したり、花の種が育ったりする場所になる。草の長さの違いが、生き物の暮らしの違いを生むのである。

(三) たとえば、春から夏にかけて一部の草を残した公園では、花にチョウやハナバチが訪れることがある。草の根元には、小さな虫やクモも見られる。短く刈られた広場だけでは暮らしにくい生き物が、その一角を利用するのである。

(四) 長い草には別の働きもある。雨が降ったとき、草や根が水の勢いを弱め、土が流れ出るのを抑える。暑い日には、地面へ直接日が当たるのを防ぎ、土の乾燥をやわらげることもある。

(五) もちろん、見通しが悪くなる場所や、人が多く歩く場所まで草を伸ばせばよいわけではない。利用する人の安全や目的を考え、刈る場所と残す場所を分ける必要がある。

(六) 公園の手入れとは、どこも同じ形に整えることだけではない。人が使う場所を守りながら、生き物や土のための場所も残すことが、さまざまな役割を持つ公園を作るのである。

【問一】

第一段落で、草を短く刈る必要があるとされるのはどのような場所ですか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第二段落で筆者が述べる、草を長く残す理由を、四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

第三段落のチョウやハナバチなどの例は、何を説明するために挙げられていますか。五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

第四段落は、第二・第三段落の理由にどのような理由を加えていますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

筆者は、公園の草地をどのように手入れするべきだと考えていますか。五十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問六】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

- ア 公園の草は、生き物を守るため、通路や遊び場を含めてすべて長く残すべきだ。
- イ 草を長く残す場所には生き物が集まるが、土や水には何の働きもない。
- ウ 草地は短くそろえた場所だけが手入れされた場所であり、長い草は放置を表す。
- エ 公園の使い方と安全を考え、短く刈る場所と、生き物や土のために残す場所を分けるべきだ。

答（ ）

解答・解説

確認問題

(一)

【模範解答】

内側と外側の間に、熱を伝えにくい空間が作られているから。

【根拠と考え方】

「から」の直前が理由です。「入れ物が厚い」という最初の説明は、筆者が退けている方なので答えません。

【☆自己採点の観点】

- ・「熱を伝えにくい空間」を書けたか。

(二)

【模範解答】

音が返るまでの違いから、見えない場所の様子を知れること。

【根拠と考え方】

コウモリは、冒頭の一般的な内容を具体的に示す例です。コウモリそのものではなく、音の返り方で位置を知る仕組みをまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・「音の返り方」と「見えない場所を知る」を結んだか。

(三)

【模範解答】

同じ言葉でも、言い方によって相手への伝わり方が変わること。

【根拠と考え方】

声や表情は理由、「大丈夫」は具体例です。最初の一文が主張です。

【☆自己採点の観点】

- ・具体例だけでなく、文章全体の考えを答えたか。

(四)

【模範解答】

店の荷物を受け取りながら、道路を歩く人の通行も確保しやすいから。

【根拠と考え方】

理由は、店の作業と歩行者の通行の二つを両立できることです。

【☆自己採点の観点】

- ・店側と歩く人側の両方を書けたか。

練習問題

問一

【模範解答】

石垣のすき間には土がたまり、草や昆虫などが暮らす場所になるから。

【別解例】

風を避けられるすき間が、小さな生き物のすみかになるから。

【根拠】

第一段落の、すき間に土がたまり、生き物の場所になる部分です。

【必要な要素】

- ・すき間の環境。
 - ・生き物の暮らす場所になること。
- 【☆自己採点の観点】
- ・「古いから大切」という一般論だけにしていないか。

問二

【模範解答】

石垣のすき間が、草や昆虫、トカゲの暮らす場所になること。

【根拠と考え方】

草にハチが訪れ、石陰でトカゲが休む話は、すき間が生き物の場所になることの具体例です。

【☆自己採点の観点】

- ・ 生き物の名前を並べるだけでなく、何を説明する例かを書いたか。

問三

【模範解答】

危険な部分は直しつつ、安全なすき間まで一様にふさがず残すべきだと考えている。

【別解例】

安全を確保したうえで、生き物が使える石垣のすき間は残すべきだと考えている。

【根拠】

第三段落の「崩れる危険」と「残せるすき間」の対比です。

【必要な要素】

- ・ 危険な部分は修理すること。
- ・ 残せるすき間は守ること。

【組み立て】

二つを「つつ」「うえで」などで両立させます。

【☆自己採点の観点】

- ・ 安全か自然の一方だけを答えていないか。

問四

【正答】

イ

【根拠と考え方】

イは、安全を確かめながら残せるすき間を守るという結論を正確にまとめている。す。

【誤答のずれ】

アは安全を無視しています。ウは「すべて固める」と範囲を広げています。エは生き物の範囲をトカゲだけに狭めています。

実戦問題

問一

【模範解答】

人が広く歩いたり、ボールで遊んだりする場所。

【根拠と考え方】

第一段落の「広く歩いたり、ボールで遊んだりする場所」をまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・公園全体へ範囲を広げていないか。

問二

【模範解答】

長い草が、昆虫の隠れ場所や花の種が育つ場所になるから。

【別解例】

草の長さの違いによって、生き物が利用できる環境も増えるから。

【根拠】

第二段落の、昆虫と花の種の部分です。

【必要な要素】

- ・長い草を残すこと。
- ・生き物の場所になること。

【☆自己採点の観点】

- ・草を残す場所が「人のあまり通らない一角」であることを無視していないか。

問三

【模範解答】

長い草を残した一角が、短い草地では暮らしにくい生き物の場所になること。

【根拠と考え方】

チヨウやハナバチは、第二段落の「生き物の暮らしの違い」を確かめる具体例です。

【☆自己採点の観点】

- ・生き物の名前だけで終わらず、長い草地の働きを書いたか。

問四

【模範解答】

長い草には、土の流出や乾燥をやわらげる働きもあると加えている。

【根拠と考え方】

第二・第三段落は生き物、第四段落は水の勢いと土の乾燥を扱います。「別の働き」が手がかかります。

【☆自己採点の観点】

- ・生き物以外の、土を守る理由を書いたか。

問五

【模範解答】

人の利用と安全を考えて刈る場所を定め、生き物や土のために草を残す場所も設けるべきだ。

【別解例】

公園全体を同じ高さにせず、使い方に応じて短い草地と長い草地を分けるべきだ。

【根拠】

第五段落の安全への配慮と、第六段落の人・生き物・土の両立です。

【必要な要素】

- ・利用と安全を考えること。
- ・刈る場所と残す場所を分けること。
- ・残す場所は生き物や土に役立つこと。

【組み立て】

一方を選ぶのではなく、目的に応じた使い分けとしてまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・「すべて短く」「すべて長く」のどちらかにしていないか。

問六

【正答】

エ

【根拠と考え方】

エは、使い方と安全を守りながら、生き物や土のための場所も残すという文章全体の考えに合います。

【誤答のずれ】

アは草を残す範囲を公園全体へ広げています。イは第四段落の土への働きを落としています。ウは、長い草を残すことを放置と評価しており、本文にない評価です。

この章のまとめ

主張、理由、具体例を見分けるには、それぞれの問いを使います。

- ・主張——筆者は何を伝えたいか。
 - ・理由——なぜその主張が成り立つか。
 - ・具体例——その理由や主張が、どのような場合に表れるか。
- 「なぜなら」「たとえば」がなくても、何が何を支えているかを考えれば見分けられます。理由を問われたら具体例だけにせず、具体例の共通点をまとめましょう。

第五章 物語文の心情を読む

この章で学ぶこと

物語文では、登場人物の気持ちがいっつもはっきり書かれているとは限りません。「うれしかった」「悲しかった」と直接書かれていなくても、行動や会話、表情、まわりの様子から、その人物の心情を考えることができます。

たとえば、何も言わずにうつむいた人物がいたとします。その人物は、怒っているのかもしれませんが、悲しんでいるのかもしれませんが。あるいは、何かを考え込んでいるのかもしれませんが。どれが近いかを考えるためには、その前後の出来事や、人物どうしの関係を見る必要があります。

心情を読むときに大切なのは、勝手に想像しすぎないことです。本文に書かれている行動、会話、表情、場面の变化を根拠にして、「この人物はこうに感じている」と考えます。

この章では、物語文の中で、人物の心情を本文を根拠にして読み取る練習をします。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

放課後、私は教室に忘れたノートを取りに戻った。窓際の席に、まだ佐藤さんが座っていた。佐藤さんは机の上に開いた答案用紙をじっと見つめていた。私が「帰らないの」と声をかけると、佐藤さんはあわてて答案を裏返し、「うん、もう帰る」と小さな声で言った。

【問】

佐藤さんは、どのような気持ちだったと考えられますか。四十字以内で説明しなさい。

【解き方】

まず、佐藤さんの行動や様子を確認します。佐藤さんは、答案用紙をじっと見つめています。さらに、声をかけられると、あわてて答案を裏返し、小さな声で答えています。

ここから、佐藤さんは答案を見られなくなかったのだと考えられます。ただし、点数がよかったのか悪かったのかは本文には書かれていません。したがって、「点数が悪くて悲しかった」と決めつけるのは言いすぎです。

本文から言えるのは、答案を人に見られることを気にして、少し気まずく感じているということです。

【模範解答】

答案を見られなくなり、声をかけられて気まずく感じていた気持ち。

【別解例】

答案を見ていたところを知られ、少しあわてて隠したいと思う気持ち。

【☆自己採点の観点】

- ・「答案を見られたくない」が入っているか。
- ・「気まずい」「あわてた」などの心情が入っているか。
- ・点数が悪かったなど、本文にないことを決めつけていないか。

確認問題 行動から心情を読む

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

試合のあと、健太はベンチに座ったまま、しばらくくつひもを結び直していた。もう何度も結び直しているのに、顔を上げようとしないう。友人が「次は勝とう」と言うのと、健太は小さくうなずいた。

【問】

健太は、どのような気持ちだったと考えられますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(二)

発表の順番が近づくと、美咲は原稿を両手で強くにぎった。何度も最初の一文を口の中でくり返し、名前を呼ばれると、ゆっくり立ち上がった。

【問】

美咲は、どのような気持ちだったと考えられますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(三)

祖母から届いた手紙を読み終えると、私はすぐには封筒にしまわなかった。机の上に置いたまま、もう一度最初から読み返した。最後の一文のところで、思わず指を止めた。

【問】

「私」は、手紙に対してどのような気持ちを抱いていますか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

練習問題 会話や場面から心情を読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

文化祭の準備で、私たちの班は教室の飾りつけを担当していた。私は、色紙で作った花を黒板のまわりに貼る係だった。けれども、何度貼っても少しずつ傾いてしまい、ほかの人より作業が遅れていた。

そのとき、同じ班の森さんが近づいてきた。私は、また注意されるのだと思って、思わず手を止めた。森さんは、私の貼った花を見て、「この色の組み合わせ、けっこう好きだな」と言った。そして、自分の持っていたテープを半分に切り、「ここを止めると、少し安定するよ」と教えてくれた。

私は、もう一度花を貼り直した。今度は前よりまっすぐに貼ることができた。森さんが「いい感じ」と言うと、私は小さく息をはいた。

【問一】

森さんが近づいてきたとき、「私」はどのような気持ちでしたか。三十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

森さんの言葉によって、「私」の気持ちはどのように変わりましたか。三十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

「私は小さく息をはいたとありますが、この行動からどのような心情が読み取れますか。三十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

- ア 私は、森さんに注意されと思ったが、認められ助けられて安心した。
イ 私は、森さんに作業をすべて任せ、自分では何もしなくなった。
ウ 森さんは、私の作業を否定し、飾りつけをやめるように言った。
エ 私は、森さんの言葉を聞いて、文化祭の準備が嫌いになった。

答（ ）

実戦問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私は、合唱の練習があまり好きではなかった。歌うこと自体が嫌いなわけではない。ただ、大勢の中で声を出すと、自分の声だけが変に目立っているような気がして、いつも少し小さな声になってしまった。

(二) 音楽の時間、先生が「今日は二人ずつ前に出て、短い部分を歌ってみましょう」と言った。教室の空気が少しざわついた。私は楽譜の端を指でなぞりながら、自分の名前が呼ばれないことを願っていた。

(三) けれども、三番目に私の名前が呼ばれた。隣には、同じ班の春香が立った。春香は私のほうを見て、小さくうなずいた。私は、そのうなずきに返事をするように、ほんの少しだけ首を動かした。

(四) 歌い始めると、最初の一音が思ったより小さく出た。私はあわてて楽譜に目を落とした。すると、隣から春香の声がまっすぐに聞こえてきた。大きすぎるわけではないのに、音が前に進んでいくような声だった。私は、その声に少し寄りかかるようにして、次の音を出した。

(五) 歌い終わると、先生は「二人の声がだんだんそろってきましたね」と言った。私は顔が熱くなるのを感じた。春香が席へ戻る途中で、「最後、きれいだったよ」と小さく言った。私はすぐには返事ができず、楽譜を胸の前で少し強く持った。

(六) その日の帰り道、私は自分の声がまだ耳の奥に残っているような気がした。うまく歌えたかどうかは分からない。けれども、だれかの声に支えられながら、自分の声も少しだけ前に出せた。そのことだけは、はっきり覚えていた。

【問一】

第一段落で、筆者が合唱の練習をあまり好きではなかったのはなぜですか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第二段落の「自分の名前が呼ばれないことを願っていた」から、筆者のどのような気持ちが分かりますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

第三段落で、春香が小さくうなずいたことは、筆者にとってどのような意味を持っていたか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

第四段落の「その声に少し寄りかかるようにして」とは、筆者がどのような気持ちで歌ったことを表していますか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

第五段落で、筆者が「すぐには返事ができず、楽譜を胸の前で少し強く持った」のはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問六】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、春香の声を聞いて、自分は歌わなくてもよいと思うようになった。

イ 筆者は、春香に支えられながら、自分の声を少し前に出せたと感じた。

ウ 筆者は、先生にほめられなかったため、合唱への自信を完全になくした。

エ 筆者は、最初から大きな声で歌うことが得意で、名前を呼ばれるのを待っていた。

答（ ）

解答・解説

確認問題

(一)

【模範解答】

試合に負けた悔しさを感じ、すぐ顔を上げられずにいる気持ち。

【解説】

健太は試合のあと、何度もくつひもを結び直し、顔を上げようとしていません。この行動から、試合に負けた悔しさや落ち込みがあり、すぐに気持ちを切り替えられない様子が読み取れます。

【☆自己採点の観点】

- ・「試合に負けた悔しさ」が入っているか。
- ・「顔を上げられない」様子とつながっているか。
- ・本文にない強い怒りや相手への不満を決めつけていないか。

(二)

【模範解答】

発表を前に緊張しながらも、何とか話そうとしている気持ち。

【解説】

美咲は原稿を強くにぎり、最初の一文を何度もくり返しています。このことから、発表を前に緊張していることが分かります。一方で、名前を呼ばれると立ち上がったので、逃げ出すのではなく、何とか発表しようとしている気持ちも読み取れます。

【☆自己採点の観点】

- ・「発表を前に緊張している」が入っているか。
- ・「何とか話そうとしている」が入っているか。
- ・「発表が楽しみで仕方ない」と取り違えていないか。

(三)

【模範解答】

祖母の手紙を大切に思い、書かれた言葉を深く受け止めている気持ち。

【解説】

「私」は手紙をすぐに封筒にしまわず、もう一度読み返しています。また、最後の一文で指を止めています。この行動から、手紙を大切に思い、祖母の言葉を心にとめていることが分かります。

【☆自己採点の観点】

- ・「手紙を大切に思う」が入っているか。
- ・「言葉を深く受け止める」が入っているか。
- ・手紙の内容を嫌がっているように書いていないか。

練習問題

問一

【模範解答】

作業が遅れ、また注意されるのではないかと不安だった。

【解説】

「私」は花をうまく貼れず、ほかの人より作業が遅れています。そのため、森さんが近づいてきたとき、「また注意されるのだと思って」手を止めています。ここから、不安や身構える気持ちが読み取れます。

【☆自己採点の観点】

- ・「作業が遅れていた」が入っているか。
- ・「注意される不安」が入っているか。
- ・森さんを最初から信頼して喜んでいたように書いていないか。

問二

【模範解答】

注意されると思って不安だったが、認められ助けられて安心した。

【解説】

森さんは、私の作業をただ注意するのではなく、「この色の組み合わせ、けっこう好きだな」と認めたうえで、テープの止め方を教えてくれました。そのため、「私」の気持ちは、不安から安心へと変わったと考えられます。

【☆自己採点の観点】

- ・「不安だった」が入っているか。
- ・「認められた」「助けられた」が入っているか。
- ・森さんに否定されたと取り違えていないか。

問三

【模範解答】

前よりうまく貼ることができ、ほっとして安心していている心情。

【解説】

「小さく息をはいた」という行動は、緊張が少しゆるんだことを表しています。森さんに教えてもらって花を前よりまっすぐ貼ることができ、「いい感じ」と言われたあとですから、安心した気持ちが読み取れます。

【☆自己採点の観点】

- ・「うまくできた」が入っているか。
- ・「ほっとした」「安心した」が入っているか。
- ・怒りや不満の行動として読んでいないか。

問四

【正答】

ア

【解説】

本文では、「私」は森さんに注意されると思って不安になりますが、森さんは色の組み合わせを認め、貼り方を教えてくれます。その結果、「私」は前よりまっすぐに花を貼ることができ、安心します。したがって、アが正解です。

イは、私が作業をすべて森さんに任せたと書かれていません。ウは、森さんが私の作業を否定していないので誤りです。エは、文化祭の準備が嫌いになったという内容が本文にありません。

実戦問題

問一

【模範解答】

大勢の中で声を出すと、自分の声だけが目立つよう不安だったから。

【解説】

第一段落には、筆者が歌うこと自体を嫌いなわけではないとあります。そのうえで、大勢の中で声を出すと、自分の声だけが変に目立っているような気がして、声が小さくなってしまおうと述べています。これが、合唱の練習をあまり好きではなかった理由です。

【☆自己採点の観点】

- ・「大勢の中で声を出す」が入っているか。
- ・「自分の声だけが目立つよう不安」が入っているか。
- ・「歌うこと自体が嫌い」と取り違えていないか。

問二

【模範解答】

人前で歌うことを不安に思い、できれば避けたいと願う気持ち。

【解説】

先生が二人ずつ前に出て歌うと言ったあと、筆者は楽譜の端をなぞりながら、自分の名前が呼ばれないことを願っています。これは、人前で歌うことへの不安や、できれば避けたいという気持ちを表しています。

【☆自己採点の観点】

・「人前で歌う不安」が入っているか。

・「避けたい」という気持ちが入っているか。

・名前を呼ばれてく期待していたと読んでいないか。

問三

【模範解答】

不安な筆者に、春香が一緒にいるから大丈夫だと伝える合図だった。

【解説】

春香は、筆者のほうを見て小さくうなずいています。筆者も、それに返事をするように首を動かしています。このやりとりから、春香のうなずきは、不安な筆者を支え、安心させるような合図だったと考えられます。

【☆自己採点の観点】

・「不安な筆者」が入っているか。

・「一緒にいるから大丈夫」という支えが入っているか。

・春香が筆者を責めたように書いていないか。

問四

【模範解答】

春香の声に支えられ、安心しながら自分も声を出そうとしている気持ち。

【解説】

筆者は最初の一音が小さく出て、あわてて楽譜に目を落とします。そのとき、隣から春香のまっすぐな声が聞こえます。「寄りかかるように」という表現から、筆者が春香の声に支えられ、少し安心しながら次の音を出したことが分かります。

【☆自己採点の観点】

・「春香の声に支えられた」が入っているか。

・「安心して自分も声を出そうとした」が入っているか。

・春香にすべて任せて歌わなかったという意味にしていないか。

問五

【模範解答】

ほめられてうれしいが照れくさく、すぐ言葉にできなかったから。

【解説】

先生から「二人の声がだんだんそろってきた」と言われ、春香からも「最後、きれいだっただよ」と言われています。筆者は顔が熱くなるのを感じ、すぐに返事ができず、楽譜を強く持っています。ここから、うれしさと照れくささが混ざり、すぐには言葉にできなかったことが読み取れます。

【☆自己採点の観点】

- ・「ほめられてうれしい」が入っているか。
- ・「照れくさい」「言葉にできない」が入っているか。
- ・怒って返事をしなかったように読んでいないか。

問六

【正答】

エ

【解説】

本文の最後で、筆者は「だれかの声に支えられながら、自分の声も少しだけ前に出せた」と感じています。春香の声によって、自分も少し声を出せたことが大切な経験として残っています。したがって、エが正解です。

アは、筆者が自分は歌わなくてもよいと思ったとは書かれていません。ウは、先生が二人の声を認める言葉をかけているため、本文に合いません。イは、筆者が最初から歌うことを得意としていたわけではないため誤りです。

この章のまとめ

物語文で人物の心情を読むときは、行動、会話、表情、場面の变化に注目します。気持ちや直接書かれていなくても、人物が何をしたのか、どのように話したのか、前後で何が変わったのかを見ることで、心情を考えることができます。

ただし、本文に書かれていないことまで決めつけてはいけません。「怒っている」「悲しんでいる」「うれしい」と考えるときには、必ず本文のどの部分からそう言えるのかを確かめましょう。

心情を読む力は、人物の内面を勝手に想像する力ではなく、本文の言葉を手がかりにして、人の気持ちに近づく力です。

第六章 説明文の中心をつかむ

この章で学ぼう

説明文や論説文には、筆者が文章全体を通して伝えたい中心があります。中心は最初や最後に一文で書かれることもありますが、いつも末尾を写せばよいわけではありません。

繰り返される言葉、対比される考え、複数の具体例に共通すること、筆者がいったん認めてから最後に重く置いたことを結びつけて考えます。文章の話題と中心も区別します。修理の話が出ていても、中心は特定の道具の直し方ではなく、物との関わり方についての考えかもしれません。

この章では、第三章の段落の役割、第四章の主張・理由・具体例を組み合わせ、文章全体の中心をつかみます。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

駅や建物のゆるやかな坂道は、車いすを使う人のために作られることが多い。しかし、そこを通りやすいのは車いすの人だけではない。ベビーカーを押す人や、大きな荷物を運ぶ人にも役立つ。映像につけられた字幕も、耳で音を聞き取りにくい人でなく、音を出せない場所にいる人や、話された言葉を文字で確かめたい人を助ける。一人の困りごとを出発点にした工夫が、多くの人の使いやすさにつながることもある。

【問】

本文で筆者が最も伝えたいことを、四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【考える順序】

一 坂道と字幕は別の具体例である。

二 二つに共通するのは、ある人の困りごとに応えた工夫が、ほかの人にも役立つことである。

三 具体例を並べず、共通点を中心としてまとめる。

【模範解答】

一人の困りごとに応える工夫が、多くの人の使いやすさにつながる。

【別解例】

特定の人のために始めた工夫が、さまざまな人の助けになる。

【根拠】

坂道と字幕の二つの例に共通する働きと、最後の一文です。

【必要な要素】

- ・一人または特定の人の困りごとから始まること。
- ・多くの人の使いやすさにつながる。

【組み立て】

二つの具体例に共通する関係を一般化します。

【☆自己採点の観点】

- ・坂道か字幕の一方だけを答えていないか。

確認問題 中心となる考えを探す

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

道具を大切に使うことは、ただ物を長持ちさせるためだけではない。使い終わった筆箱を整える、鉛筆を削っておく、ノートの角をそろえる。そうした小さな行動は、次に学ぶ自分を助ける準備にもなる。道具を整えることは、自分の学びを整えることにもつながっている。

【問】

本文で筆者が最も伝えたいことを、三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(二)

人の話を聞くとき、すぐに自分の考えを言いたくなることがある。けれども、相手の言葉を最後まで聞いてみると、最初に思ったこととは違う意味が見えてくることもある。聞くとは、ただ黙っていることではない。相手の言葉がどこから出てきたのかを、少し待ちながら受け取ることでもある。

【問】

本文で筆者が考える「聞く」とは、どのようなことですか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

(三)

苦手なことに取り組むとき、いきなり大きく変わろうとすると、かえって続かないことがある。まずは一問だけ解く、一行だけ書く、五分だけ机に向かう。その小さな始まりが、次の日の自分を少し動かす。大きな変化は、小さな一歩を重ねる中で生まれてくる。

【問】

本文で筆者が最も伝えたいことを、四十字以内で説明しなさい。

解答欄

(四)

川沿いの道には、洪水を防ぐための堤防がある。同時に、その上は散歩や通学に使われ、町を見渡せる場所にもなっている。一つの施設が、災害への備えと、日々の暮らしの場という二つの役割を持つことがある。

【問】

本文で筆者が最も伝えたいことを、四十字以内で説明しなさい。

解答欄

練習問題 具体例にまどわされずに読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、手紙を書く時間には特別なよさがあると思う。もちろん、今は短いメッセージをすぐに送ることができる。連絡をするだけなら、そのほうが速くて便利である。けれども、手紙を書くときには、相手の顔を思い浮かべながら言葉を選ぶ時間が生まれる。「元気ですか」と書く前に、最近の相手の様子を思い出す。「ありがとう」と書くときには、何に対してそう感じているのかを考える。そうして言葉を選んでいくうちに、自分の気持ちも少しずつはつきりしてくる。

手紙のよさは、紙に書くことそのものだけにあるのではない。相手を思い、自分の気持ちを見つめながら、言葉をゆっくり選ぶ時間にあるのだ。

【問一】

第一段落では、短いメッセージについてどのように述べていますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第二段落の具体例は、何を説明するために挙げられていますか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

本文で筆者が最も伝えたいことを、五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 手紙を書く時間には、相手や自分の気持ちを見つめるよさがある。

イ 手紙のよさは、短いメッセージより速く届くところにある。

ウ 手紙では、相手のことを考えずに決まった言葉を書けばよい。

エ 便利な連絡手段がある今は、手紙を書くことには意味がない。

答（ ）

実戦問題 文章全体の中心を組み立てる

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 身の回りの道具が壊れたとき、新しいものに買い替えることは珍しくない。新しい製品は使いやすく、古いものより少ない電気で動く場合もある。買い替えることには、たしかな利点がある。

(二) 一方で、壊れたらすぐ捨てるという選択だけでは見えないこともある。ねじを外し、部品を確かめると、道具がどのような仕組みで動いていたかが分かる。直せなかったとしても、作った人の工夫や、長く使うために弱くなりやすい部分へ気づくことがある。

(三) 近年、地域の人が壊れた道具を持ち寄り、直し方を知る人と一緒に修理を試す催しが開かれている。そこでは、時計を直す人が、持ち主に歯車の動きを見せることもある。修理は、道具を元に戻すだけでなく、知識を人から人へ渡す場にもなっている。

(四) もちろん、何でも修理して使い続ければよいわけではない。安全に関わる部品が傷んでいるものや、古いために多くのエネルギーを使うものは、交換したほうがよい場合もある。修理には時間や費用がかかり、必要な部品が手に入らないこともある。

(五) 大切なのは、修理と買い替えのどちらか一方をいつも正しいと決めることではない。道具の状態、使い方、安全、環境への影響を確かめて選ぶことである。修理という選択肢を持つと、私たちは道具の仕組みや、それを支える人の技術にも目を向けられる。

(六) 物を長く使うことの意味は、同じ品物を手元に残すことだけにはない。直せるかを考える過程で、物を作る知恵や人とのつながりを知り、自分が何を大切にして使うのかを選び直すことにもある。

【問一】

第一段落で、筆者は買い替えについてどのようなことを認めていますか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第二段落と第三段落に共通して述べられている、修理の意味は何ですか。五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

第四段落は、文章全体の中でどのような役割をしていますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

第五段落で筆者が大切だと述べることを、五十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

本文で筆者が最も伝えたいことを、六十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問六】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 古い道具は、新しい道具より必ず環境にやさしいので、すべて修理するべきだ。

イ 修理は道具を元どおりにする作業だけで、人の知識や技術とは関係がない。

ウ 買い替えには利点があるが、修理を考えることは物の仕組みや人の技術へ目を向ける機会にもなる。

エ 修理には時間がかかるため、壊れた道具は状態を確かめずに捨てたほうがよい。

答（ ）

解答・解説

確認問題

(一)

【模範解答】

道具を整えることは、次の学びに向かう自分を助けること。

【根拠と考え方】

筆箱や鉛筆は具体例です。共通する「道具を整えること」と、その意味である「学びの準備」を残します。

【☆自己採点の観点】

・具体例だけを並べず、共通する中心をまとめたか。

(二)

【模範解答】

相手の言葉の背景まで、少し待ちながら受け取ろうとすること。

【別解例】

相手の話を最後まで聞き、考えが生まれた背景を理解しようとする事。

【根拠】

「ただ黙っていることではない」と、最後の一文を結びます。

【☆自己採点の観点】

・「最後まで聞く」だけでなく、背景を受け取ることを書けたか。

(三)

【模範解答】

大きな変化は、小さな一歩を重ねる中で生まれること。

【根拠と考え方】

一問、一行、五分は具体例です。最後の一文に、それらの共通点がまとめられています。

【☆自己採点の観点】

- ・「小さな一步の積み重ね」を中心にしたか。

(四)

【模範解答】

一つの施設が、防災と日常の暮らしという複数の役割を持つこと。

【根拠と考え方】

堤防の例から、一つのもが二つの目的を支えるという共通した考えを取り出します。

【☆自己採点の観点】

- ・堤防の具体的な用途だけでなく、一般化してまとめたか。

練習問題

問一

【模範解答】

短いメッセージは、連絡を速く便利にできるものだと言っている。

【根拠と考え方】

第一段落だけを対象とします。手紙のよさは後の段落なので混ぜません。

【☆自己採点の観点】

- ・「連絡」「速い」「便利」を書けたか。

問二

【模範解答】

手紙を書くとき、相手を思い浮かべ、自分の気持ちを確かめながら言葉を選ぶこと。

【根拠と考え方】

「元気ですか」「ありがとう」は、言葉を選ぶ時間に相手と自分を見つめることの例です。

【☆自己採点の観点】

- ・例の言葉だけを答えず、何を説明する例かをまとめたか。

問三

【模範解答】

手紙のよさは、相手を思い自分の気持ちを見つめながら、言葉をゆっくり選ぶ時間にあること。

【別解例】

手紙を書く時間には、相手を思い浮かべ、自分の気持ちを言葉へ整えるよさがあること。

【根拠】

短いメッセージとの対比、第二段落の具体例、第三段落のまとめです。

【必要な要素】

- ・相手を思うこと。
- ・自分の気持ちを見つめること。
- ・言葉を選ぶ時間であること。

【☆自己採点の観点】

- ・紙に書くことだけを手紙のよさにしていないか。

問四

【正答】

ア

【根拠と考え方】

アは、相手を思い、自分の気持ちを見つめながら言葉を選ぶという中心に合います。

【誤答のずれ】

イは速さの評価を手紙へ移しています。ウは第二段落と反対です。エは便利な手段を認めることから、手紙を無意味だとする結論を加えています。

実戦問題

問一

【模範解答】

新しい製品には、使いやすさや消費電力の少なさなどの利点があること。

【根拠と考え方】

第一段落では、買い替えを否定せず、新しい製品の利点を認めています。

【☆自己採点の観点】

- ・買い替えがいつも悪いという説明にしていないか。

問二

【模範解答】

道具の仕組みや作る人の工夫を知り、修理の知識を人へ伝えられること。

【別解例】

物の仕組みへ目を向け、直し方や技術を人から人へ渡せること。

【根拠】

第二段落の仕組みへの気づきと、第三段落の知識を渡す場という内容です。

【必要な要素】

- ・物の仕組みや工夫を知ること。
- ・知識や技術が人へ伝わること。

【組み立て】

二段落の共通点を「元に戻すだけではない修理の意味」としてまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・時計の例だけで終わっていないか。

問三

【模範解答】

何でも修理すべきではない場合を示し、修理の限界や条件を説明している。

【根拠と考え方】

安全、消費電力、時間、費用、部品という条件を挙げ、前の修理のよさを一方向に言いすぎないようにしています。

【☆自己採点の観点】

- ・内容だけでなく、前の説明を限定する役割を書けたか。

問四

【模範解答】

修理か買い替えかを決めつけず、状態、安全、使い方、環境への影響を確かめて選ぶこと。

【別解例】

一方を常に正しいとせず、道具の状態や使い方などに応じて判断すること。

【根拠】

第五段落の最初の二文と、判断の観点を列挙した部分です。

【必要な要素】

- ・どちらか一方を常に正しいとしないこと。
- ・複数の条件を確かめて選ぶこと。

【☆自己採点の観点】

- ・修理か買い替えの一方だけを勧める答案にしていなか。

問五

【模範解答】

修理を選択肢に持ち、条件に応じて判断することは、物の仕組みや人の技術を知り、使い方を選び直すことにつながる。

【別解例】

修理か買い替えかを状態に応じて選び、修理を通して物を作る知恵や人とのつながりへ目を向けることが大切だ。

【根拠】

買い替えの利点、修理の意味、修理の限界、第五・第六段落の結論を合わせます。

【必要な要素】

- ・条件に応じて修理と買い替えを選ぶこと。
- ・修理から仕組みや技術、人とのつながりを知れること。
- ・何を大切に使うか選び直すこと。

【組み立て】

筆者が認める買い替えの利点を無視せず、最終的に重く置く修理の意味へつなぎます。

【☆自己採点の観点】

- ・「すべて修理するべきだ」と本文より強くしていないか。
- ・複数段落を踏まえた中心になっているか。

問六

【正答】

ウ

【根拠と考え方】

ウは、買い替えの利点を認めつつ、修理が物の仕組みや人の技術へ目を向ける機会になるという両面をまとめています。

【誤答のずれ】

アは「必ず」「すべて」と程度と範囲を広げています。イは修理の意味を元どおりにする作業だけへ狭めています。エは道具の状態を確かめるといふ本文の判断を落としています。

この章のまとめ

説明文の中心は、一文だけでなく、文章全体から組み立てます。

- ・繰り返される言葉や、対比される考えを見る。
- ・複数の具体例に共通することを取り出す。
- ・筆者が認める点と、最後に重く置く主張を区別する。
- ・末尾を写すだけでなく、そこへ至る理由や条件を必要に応じて加える。

中心をつかめると、記述答案や要約に必要な内容も選びやすくなります。

第七章 記述答案を組み立てる

この章で学べば

記述問題では、本文の内容を分かっているだけでなく、問いに必要な内容を選び、その関係が伝わる一文へ組み立てる必要があります。文末の形は答案を整える助けになりますが、「なぜなら必ず『から』」「どのようなことなら必ず『こと』」と覚えるだけでは十分ではありません。

記述答案は、次の五つの順序で作ります。

- 一 問いを確認する——理由、内容、心情、変化、段落の役割など、何を求められているかを見る。
- 二 根拠を特定する——本文のどの語句、文、段落を使うか決める。
- 三 必要な要素を選ぶ——答案に欠かせない内容を一つから三つに絞る。
- 四 要素の関係を整える——原因と結果、出来事と心情、以前と今、具体例と一般化などの関係を示す。
- 五 文末と字数を確認する——問いに答える文になっているか、指定字数に収まるかを最後に確かめる。

この章では、正しい答案を作るだけでなく、不足、余計な付加、因果の逆転、主語のずれを見つけて直します。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、勉強を始める前に、机の上を一度片づけるようにしている。前は、教科書やプリント、読みかけの本が机の上に重なったまま勉強を始めていた。しかし、そうすると、途中で別のものが気になり、なかなか集中できなかった。今は、使うものだけを机に出すようにしている。そうすると、余計なものに気を取られず、勉強へ気持ち切り替えやすくなる。

【問】

筆者が勉強の前に机の上を片づけるのはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【考える順序】

- 一 問いは、片づける「理由」を求めている。
- 二 根拠は、前の状態では別のものが気になったことと、今は気持ちを切り替えやすいこと。
- 三 必要な要素は「余計なものに気を取られない」「勉強へ気持ちを切り替えやすい」の二つ。
- 四 片づけることを原因、集中しやすくなることを結果として結ぶ。
- 五 最後に、理由として読める文末と字数を確かめる。

【模範解答】

余計なものに気を取られず、勉強へ気持ちを切り替えやすくなるから。

【別解例】

使うものだけを出すと、ほかの物が気にならず集中しやすくなるから。

【根拠】

「途中で別のものが気になり」と、最後の二文です。

【必要な要素】

- ・余計なものに気を取られないこと。
- ・勉強へ気持ちを切り替えやすいこと。

【組み立て】

片づけることによって起こる二つの結果を、理由として一文にします。

【答案で注意したい点】

「机を片づけるから」と行動を繰り返すだけでは、片づける理由を説明できません。また、本文にない「成績が上がる」を加えるのは言いすぎです。

【☆自己採点の観点】

- ・ 二つの必要要素が入ったか。
- ・ 本文にない効果を加えていないか。
- ・ 理由として意味が通じる一文か。

確認問題 必要な要素をそろえる

次の各文を読んで、問いに答えなさい。

(一)

私は、朝起きたら、その日にやることを小さな紙に三つだけ書くようにしている。たくさん書きすぎると、かえって何から始めればよいか分からなくなる。三つだけなら、一日の見通しが立ち、落ち着いて行動を始めやすくなる。

【問】

筆者が朝にやることを三つだけ書くのはなぜですか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(二)

友人の話を聞くと、私はすぐに自分の意見を言わないようにしている。相手の言葉を最後まで聞いてみると、最初に思ったこととは違う意味が見えてくることがあるからだ。聞くとは、ただ黙っていることではなく、相手の考えがどこから出てきたのかを受け取ろうとすることでもある。

【問】

本文で筆者が考える「聞く」とは、どのようなことですか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

(三)

夕食のあと、母が「今日のお弁当、助かったよ」と言った。私は自分が作ったおかずのことを思い出し、少しうつむいた。うれしいのに、正面から「ありがとう」と言われると、何と返してよいか分からなかった。

【問】

このときの「私」は、どのような気持ちでしたか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(四)

店の前で道を尋ねられた店員は、地図を指さすだけでなく、「二つ目の信号を右へ」と言葉を添えた。地図を読むのが苦手な人にも、進む順序が分かるようにするためだった。

【問】

店員が地図に言葉を添えたのはなぜですか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

練習問題 よくある答案を直す

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

班で発表の準備をしていたとき、私は資料のまとめ方で迷っていた。どの情報を残し、どの情報を削ればよいのか分からなかったからだ。けれども、みんなはそれぞれ作業を進めていて、私はなかなか質問できなかった。

そのとき、同じ班の青木さんが「ここ、少し迷うよね」と言って、私のプリントをのぞきこんだ。私は、できていないことを責められるのではないかと思って身構えた。しかし青木さんは、「この二つは似ているから、一つにまとめてもいいかも」と言い、必要なところに線を引いてくれた。私は、責められなかったことにほっとし、ようやく手を動かし始めることができた。

【問一】

青木さんに声をかけられたあと、「私」が手を動かし始められたのはなぜですか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

次の答えは、問一の答えとして何が不足していますか。三十五字以内で説明しなさい。

答案例 青木さんが、似た情報を一つにまとめてもよいと言ったから。

解答欄

【問三】

次の答えは、問一の答えとしてどの内容が余計ですか。三十五字以内で説明しなさい。

答案例 青木さんが助けてくれて安心し、発表で必ず成功できると思ったから。

解答欄

【問四】

次の答えは、原因と結果がどのように逆になっていますか。四十字以内で説明しなさい。

答案例 私が安心して手を動かしたので、青木さんが責めずに助けてくれたから。

解答欄

【問五】

次の答案は、主語がどのようにずれていますか。三十五字以内で説明しなさい。

答案例 青木さんは、資料をまとめられるようになって安心したから。

解答欄

【問六】

問一の答えとして、必要な内容を過不足なく四十五字以内で書きなさい。

解答欄

実戦問題 複数の根拠から答案を作る

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私は、授業中に質問するのが苦手だった。分からないところがあっても、手を挙げると教室中の人に見られるような気がした。自分だけが理解していないと思われるのもいやで、分からないままノートに印をつけるだけのことが多かった。

(二) ある日の数学の授業で、先生が図形の問題を説明した。私は途中までは分かったが、最後にどうしてその式になるのかが分からなかった。ノートの端に小さく「？」を書いたものの、やはり手を挙げることはできなかった。

(三) そのとき、前の席の中村さんが手を挙げた。「最後の式になるところが、もう少し分かりません。」その言葉を聞いた瞬間、私は顔を上げた。自分だけが分かっていなかったのではないのだと、初めて気づいた。

(四) 先生は、もう一度図を使って説明してくれた。さっきは見落としていた長さの関係が見えてきて、私はノートの「？」の横に、小さく丸をつけた。質問したのは中村さんだったのに、自分の中のつかえも少しほどけたような気がした。

(五) その日から、私は分からないところをそのままにしないように、少しずつ言葉にしてみることにした。質問することは、できないことを見せることではない。理解を進めるための手がかりを、自分で見つけにいくことなのだと思うた。

【問一】

筆者が授業中に質問するのを苦手にしていたのはなぜですか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第三段落で筆者が「初めて気づいた」のは、どのようなことですか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

次の答えは、問一の答えとしてどこまで合い、何が不足していますか。五十字以内で説明しなさい。

答案例 自分だけが理解していないと思われるのがいやだったから。

解答欄

【問四】

第四段落で、筆者の「つかえ」が少しほどけたのはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

筆者は、質問することをどのようなことだと考えるようになりましたか。五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問六】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、中村さんが質問したため、自分はもう考えなくてもよいと思った。

イ 筆者は、先生の説明を聞き直しても分からなかったため、質問することをあきらめた。

ウ 筆者は、最初から人前で質問することが得意で、授業中もよく手を挙げていた。

エ 筆者は、自分だけが分からないと思われる不安から質問を避けていたが、理解を進める手がかりだと考えるようになった。

答（ ）

解答・解説

確認問題

(一)

【模範解答】

一日の見通しが立ち、落ち着いて行動を始めやすくなるから。

【別解例】

することを絞れば、何から始めるかが分かり、行動しやすいから。

【根拠】

第二文の問題と、第三文の結果です。

【必要な要素】

- ・見通しが立つこと。
- ・行動を始めやすくなること。

【組み立て】

三つに絞ることと生じる二つの結果を、理由として並べます。

【☆自己採点の観点】

- ・「三つだけ書くから」と行動を繰り返すだけになっていないか。

(二)

【模範解答】

相手の言葉を最後まで聞き、考えが生まれた背景まで受け取ろうとすること。

【別解例】

黙って待つだけでなく、相手の考えの背景を理解しようとする事。

【根拠】

「最後まで聞く」と、最後の「どこから出てきたのかを受け取る」です。

【必要な要素】

- ・言葉を最後まで聞くこと。
- ・考えの背景を受け取ること。

【☆自己採点の観点】

・「黙っていること」だけにしていないか。

(三)

【模範解答】

感謝されてうれしいが、正面から言われて少し照れくさい気持ち。

【別解例】

役に立てたことはうれしい一方、何と返すか迷う照れくさい気持ち。

【根拠】

「うれしい」と、「何と返してよいか分からなかった」を結びます。

【必要な要素】

- ・うれしさ。
- ・照れや戸惑い。

【組み立て】

二つの心情を「が」「一方」で結び、混じった気持ちとして表します。

【☆自己採点の観点】

- ・うれしさか戸惑いの一方だけになっていないか。

(四)

【模範解答】

地図を読むのが苦手な人にも、進む順序が分かるようにするため。

【根拠と考え方】

最後の一文が直接の根拠です。「言葉を添えたこと」ではなく、その目的を答えます。

【☆自己採点の観点】

- ・対象となる人と、分かるようにした内容の両方を書けたか。

練習問題

問一

【模範解答】

責められると思っていたが、青木さんが理解して手伝ってくれ、安心できたから。

【別解例】

一人で迷っていたところを、青木さんが責めずに助けてくれたから。

【根拠】

第一段落の迷い、第二段落の身構え、青木さんの助言、最後の安心です。

【必要な要素】

- ・一人で迷い、責められると考えていたこと。
- ・青木さんが責めずに助けたこと。
- ・安心して動けたこと。

【組み立て】

出来事を原因、安心して動けたことを結果として結びます。

【☆自己採点の観点】

- ・助言の内容だけでなく、筆者が動けた理由まで書けたか。

問二

【模範解答】

助言の内容は合うが、それで「私」が安心できたことが不足している。

【根拠と考え方】

答案例は青木さんの言葉を示しますが、その言葉が筆者にどう働いたかを書いていません。問いは、手を動かさせた理由を求めています。

【答案で注意したい点】

本文の一部が正しくても、問いに必要な結果や心情がなければ不足答案になります。

【☆自己採点の観点】

- ・合っている部分と不足部分を分けて説明したか。

問三

【模範解答】

発表で必ず成功できると思ったという内容は、本文に書かれていない。

【根拠と考え方】

安心したことは本文に合いますが、発表の成功を確信したとは書かれていません。

【答案で注意したい点】

本文から自然に想像できそうでも、根拠のない将来の結果は加えません。

【☆自己採点の観点】

- ・余計な内容を具体的に指摘したか。

問四

【模範解答】

青木さんが責めずに助けたことが原因で、「私」が安心したという順序が正しい。

【根拠と考え方】

本文では、青木さんの行動が先で、筆者の安心と行動が後です。答案例はその順序を反対にしています。

【答案で注意したい点】

出来事の順序だけでなく、どちらが原因でどちらが結果かを確かめます。

【☆自己採点の観点】

- ・正しい原因と結果を示したか。

問五

【模範解答】

安心して資料をまとめ始めたのは青木さんではなく「私」である。

【根拠と考え方】

本文で手を動かし始めた人物は「私」です。答案例は心情と行動の主語を青木さんへ移しています。

【答案で注意したい点】

人物が複数いる文章では、各行動と心情の主語を確かめます。

【☆自己採点の観点】

- ・誰の心情と行動かを正しく指摘したか。

問六

【模範解答】

青木さんが責めずに助言してくれ、一人で迷っていた不安がやわらいだから。

【別解例】

迷っていた点を青木さんが理解し、まとめ方を手伝ってくれて安心したから。

【根拠】

問一と同じく、迷い、身構え、助言、安心を結びます。

【必要な要素】

- ・青木さんが理解し、助けたこと。
- ・筆者の不安がやわらいだこと。

【組み立て】

助けを原因、不安の変化を結果としてまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・不足、余計な付加、因果の逆転、主語のずれを直せたか。

実戦問題

問一

【模範解答】

人に見られ、自分だけが理解していないと思われるのがいやだったから。

【別解例】

手を挙げると注目され、分からないのは自分だけだと思われそうだったから。

【根拠】

第一段落の「教室中の人に見られる」と「自分だけが理解していないと思われる」です。

【必要な要素】

- ・人に見られる不安。
- ・自分だけ分らないと思われる不安。

【組み立て】

二つを並べ、質問を避けた理由としてまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・「質問が苦手だったから」と問いを繰り返していないか。

問二

【模範解答】

中村さんも同じところが分からず、自分だけではなかったということ。

【根拠と考え方】

中村さんの質問内容と、その直後の「自分だけが分かっていたのではない」を結びます。

【☆自己採点の観点】

- ・中村さんだけが分からなかったという意味にしていないか。

問三

【模範解答】

理解していないと思われる不安は合うが、人に見られる不安が不足している。

【根拠と考え方】

答案例は第二の不安を含みます。第一段落には、手を挙げると教室中から見られるように感じたことも書かれています。

【答案で注意したい点】

一つの理由が書いていても、字数と本文から見て二要素が求められる場合があります。

【☆自己採点の観点】

- ・合っている要素を認めたうえで、不足を特定したか。

問四

【模範解答】

中村さんの質問で先生の説明を聞き直し、見落としていた関係が分かったから。

【別解例】

友人の質問をきっかけに図で確かめ直し、式になる理由を理解できたから。

【根拠】

中村さんの質問、先生の再説明、見落としていた長さの関係、丸印です。

【必要な要素】

- ・質問をきっかけに説明を聞き直したこと。
- ・見落とした関係が分かったこと。

【組み立て】

きっかけと理解の変化を原因・結果で結びます。

【☆自己採点の観点】

- ・「中村さんが質問したから」だけで終わっていないか。

問五

【模範解答】

質問することは弱さを見せるのではなく、理解を進める手がかりを自分で探すこと。

【別解例】

分からなさを言葉にし、自分の理解を前へ進める手がかりを得ること。

【根拠】

第五段落の「できないことを見せることではない」と、最後の一文です。

【必要な要素】

- ・弱さを見せることではないという変化。
- ・理解を進める手がかりを探すこと。

【組み立て】

以前の見方を否定し、新しい見方を示す対比でまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・質問すれば必ず正解できる、という本文にない効果を加えていないか。

問六

【正答】

エ

【根拠と考え方】

エは、質問を避けた以前の理由と、質問を理解の手がかりと考えるようになった変化を、本文の範囲でまとめています。

【誤答のずれ】

アは、中村さんの質問から「考えなくてよい」という本文にない結論を加えています。イは、再説明で理解できたことと反対です。ウは、時間の流れを取り違えています。

この章のまとめ

記述答案は、文末からではなく、問いと根拠から作ります。

- ・ 問いが求める内容を確認する。
- ・ 本文から根拠を特定する。
- ・ 必要な要素を選ぶ。
- ・ 原因と結果、出来事と心情、以前と今などの関係を整える。
- ・ 最後に文末と字数を確認する。

答案を見直すときは、不足、余計な付加、因果の逆転、主語のずれを一つずつ確かめましょう。

第八章 選択肢のまぎらわしさを見抜く

この章で学ぶこと

選択問題では、本文と正反対の選択肢だけでなく、一部は合っているのに、途中からずれる選択肢が出ます。本文と選択肢を、最初から最後まで照らし合わせる必要があります。

よくある誤答のずれには、次のようなものがあります。

- ・主語——考えた人、行動した人が入れ替わっている。
- ・範囲——一部の話を全体へ広げる、または全体を一部だけへ狭める。
- ・因果——原因と結果を逆にする、関係のない二つを原因と結果にする。
- ・程度——「少し」を「完全に」、「場合がある」を「必ず」に強める。
- ・時間——以前と現在、出来事の前後を取り違える。
- ・評価——本文が事実を述べただけなのに、よい・悪いという判断を加える。
- ・本文にない付加——本文からは言えない目的、気持ち、結果をつけ足す。

強い言葉があるだけで誤りとは限りません。本文が同じ強さまで述べているかを確かめます。この章では、正答の根拠と誤答のずれを両方説明します。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

私は、前は読書を少し退屈なものだと思っていた。けれども、友人にすすめられた物語を読んでから、少し考えが変わった。登場人物が迷いながら進んでいく姿を追っているうちに、自分もその人と一緒に歩いているような気がした。本を読むことは、ただ文字を追うことではなく、知らない人の時間を少し分けてもらうことなのだった。

【問一】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、友人にすすめられる前から、読書を知らない人の時間にふれるものだと考えていた。

イ 友人は、物語の登場人物と一緒に歩いているような気持ちになったと筆者へ話した。

ウ 筆者は、物語を読んで考えが完全に変わり、読書を退屈だと二度と感じなくなった。

エ 筆者は、物語を読む中で、知らない人の時間にふれるような感覚を持った。

答（ ）

【問二】

正答が適切である理由と、ア～ウのずれを合わせ、七十字以内で説明しなさい。

解答欄

【考える順序】

- 一 誰が、いつ、どの程度考えを変えたかを本文で確かめる。
- 二 エは、筆者が物語を読んで得た感覚を、本文の範囲でまとめている。
- 三 アは時間、イは主語、ウは程度がずれている。

【正答】

エ

【模範解答】

エは読後の筆者の感覚に合い、アは時間、イは主語、ウは「完全に」と程度がずれているから。

【別解例】

エは本文の変化を正しくまとめ、アは以前、イは感じた人、ウは変化の強さを取り違えているから。

【根拠】

「友人にすすめられた物語を読んでから」「少し考えが変わった」「自分も」を確認します。

【☆自己採点の観点】

・正答の根拠と、三つの誤答のずれを区別して書けたか。

確認問題 ずれの種類を一つずつ確かめる

(一)

私は、走ることがあまり得意ではない。体育の時間に長い距離を走ると、すぐに息が上がってしまう。それでも、前より少し長く走れるようになると、自分の体が少しずつ変わっているようでうれしくなる。

【問一】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、走るのが苦手だが、以前より少し長く走れるとうれしい。

イ 筆者は、走れば必ず長い距離を楽に走れるようになると考えている。

ウ 筆者は、息が上がったことを理由に、体育で走るのを完全にやめた。

エ 筆者は、走るより歩くほうが体によいと先生から教えられた。

答 ()

【問二】

ウのずれを、「程度」の語を使って三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(二)

この公園には、大きな遊具はない。けれども、夕方になると、近くの人たちがベンチに座って話をしている。子どもが走り回る場所というより、だれかが少し立ち止まるための場所になっている。

【問一】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 公園は大きな遊具がないため、夕方にはだれにも使われていない。

イ 公園は、近くの人がベンチで過ごし、少し立ち止まれる場所になっている。

ウ 公園を使うのは子どもだけで、大人は立ち入らない。

エ 公園では、近所の人が遊具を増やすための話し合いを毎日開いている。

答（ ）

【問二】

ウのずれを、「範囲」の語を使って三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(三)

私は、日記を毎日長く書くこうとして、何度も続かなかった。そこで、今は一行だけでもよいことにしている。短くても、その日に見たことや考えたことを残しておく、あとから読み返したとき、自分の変化に気づくことがある。

【問一】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は以前から、一行だけの日記を無理なく続けていた。

イ 筆者は今、短い記録でも自分の変化に気づく手がかりになると考えている。

ウ 筆者は日記を読み返すと必ず落ち込むため、書いた日に捨てている。

エ 筆者の友人は、長い日記を書けば記憶力が高まると教えた。

答（ ）

【問二】

アのずれを、「時間」の語を使って三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

(四)

朝、市場へ魚を運ぶ車が港を出た。そのあと、店の人たちは売り場の氷を整え、届いた魚をすぐ並べられるよう準備した。

【問】

次の選択肢は、因果がどのようにずれていますか。四十字以内で説明しなさい。

選択肢 店の人が氷を整えたので、魚を運ぶ車が港を出発した。

解答欄

練習問題 一部だけ合う選択肢を見抜く

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

班でポスターを作るようになったとき、私は絵を描く係になった。絵は嫌いではなかったが、みんなに見られるものだと思うと、急に手が止まった。失敗したらどうしようと考えてうちに、白い紙の前で時間ばかりが過ぎていった。

そのとき、同じ班の山下さんが「全部を一人で描こうとしなくてもいいよ」と言った。そして、私が描きかけていた木の横に、小さな鳥の絵を描き足した。「こんなふうに、少しずつ増やしていけばいいんじゃないかな。」その言葉を聞くと、私は少し肩の力が抜けた。完璧な一枚を一人で作るのではなく、みんなで少しずつ形にしていけばよいのだと思った。

【問一】

本文の内容に合うものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は絵が嫌いだったため、山下さんにポスターを全部描いてもらうことにした。

イ 筆者は一人で完璧に描こうとしていたが、みんなで少しずつ作ればよいと思えるようになった。

ウ 山下さんは、筆者の絵が失敗だと評価し、自分の鳥の絵に描き直した。

エ 筆者は山下さんの言葉で完全に自信を持ち、その後は不安をまったく感じなくなった。

答（ ）

【問二】

アは、本文のどの部分と一見近く、どこからずれていますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

ウには、「評価」と「主語」のどのようなずれがありますか。五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

エには、程度のどのようなずれがありますか。四十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

問一の正答が適切である理由を、五十字以内で説明しなさい。

解答欄

実戦問題 選択肢全体を本文と照合する

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 海辺の町に、長い間使われていなかった古い倉庫があった。屋根の一部は雨漏りし、窓も割れていたため、取り壊す案も出ていた。一方で、太い柱や高い天井には、この町が港としてにぎわっていたころの造りが残っていた。

(二) 町の人たちは、倉庫を昔の姿のまま保存するのではなく、使える部分を残して新しい役割を持たせることにした。傷んだ屋根は直し、壁には断熱材を加えたが、荷物を運ぶために使われた大きな扉と柱は残した。

(三) 改修された倉庫では、木工や自転車修理を学ぶ催し、地域の食材を使う料理会などが開かれている。参加者の中には、倉庫が働く場所だった時代を知らない人も多い。それでも、柱の傷や扉の大きさから、以前の使われ方を想像できる。

(四) 古い建物を使い直すには、新しく建てる場合とは違う難しさがある。どの部分を安全のために変え、どの部分を記憶として残すかを一つずつ判断しなければならぬ。費用や使いやすさを考えると、すべての古い建物を残せるわけでもない。

(五) この倉庫の改修が示すのは、古いものを変えずに守ることだけが保存ではないということである。今の暮らしに合うよう手を加えながら、以前の姿を読み取れる部分を残せば、建物の記憶は新しい活動の中で受け継がれていく。

【問一】

本文の内容に合うものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 町の人たちは、倉庫を昔とまったく同じ姿で残すため、屋根や壁を修理しなかった。

イ 町の人たちは、倉庫の使える部分を残して直し、今の活動に使いながら建物の記憶を伝えるようにした。

ウ 倉庫で催しに参加する人は全員、倉庫が港の仕事に使われていた時代を知っている。

エ 古い建物は新築より必ず費用がかからないため、町はすべての倉庫を保存することにした。

答（ ）

【問二】

アのずれを、「時間」と「本文にない付加」の観点から五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

ウのずれを、「範囲」の観点から四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

エのずれを、「程度」と「範囲」の観点から五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

次の選択肢は、本文の内容とどこがずれていますか。五十字以内で説明しなさい。

選択肢 改修後の催しが好評だったことが原因で、倉庫には港の時代の柱や扉が生まれた。

解答欄

【問六】

問一の正答が文章全体に合う理由を、六十字以内で説明しなさい。

解答欄

解答・解説

確認問題

(一) 問一

【正答】

ア

【根拠と考え方】

アは、走るのが苦手であることと、少し長く走れるとうれしいことの両方を、本文と同じ程度でまとめています。

【誤答のずれ】

イは「必ず」と程度を強めています。ウは、走るのをやめたという本文にない結果を加えています。エは、先生や歩くことの評価が本文にありません。

(一) 問二

【模範解答】

本文は走り続けているのに、「完全にやめた」と程度を強めている。

【根拠と考え方】

筆者は前より長く走れることを喜んでいます。「完全にやめた」は本文の行動とも合いません。

【☆自己採点の観点】

・本文の事実と、強められた表現の両方を示したか。

(二) 問一

【正答】

イ

【根拠と考え方】

イは、夕方のベンチと、立ち止まる場所という本文の内容を過不足なくまとめています。

【誤答のずれ】

アは遊具がないことを、使われていない原因にしています。ウは利用者の範囲を子どもだけへ狭めています。エは話し合いを毎日開くという内容を加えています。

(二) 問二

【模範解答】

本文は近くの人たちと述べるのに、利用者の範囲を子どもだけに狭めている。

【根拠と考え方】

「近くの人たち」には年齢の限定がありません。選択肢は「子どもだけ」と範囲を狭めています。

【☆自己採点の観点】

・本文の範囲と選択肢の範囲を比べたか。

(三) 問一

【正答】

イ

【根拠と考え方】

イは、今の書き方と、読み返したときの意味を正確にまとめています。

【誤答のずれ】

アは以前と今を取り違えています。ウは「必ず」と程度を強め、捨てる行動も加えています。エは友人の発言を加えています。

(三) 問二

【模範解答】

以前は長く書くこうとして続かず、一行にしたのは今なので、時間が逆である。

【根拠と考え方】

「今は一行だけでもよい」とあるため、一行の日記は現在の工夫です。

【☆自己採点の観点】

・以前と今の内容をそれぞれ示したか。

(四)

【模範解答】

車の出発が先で、店の準備は到着に備えた行動なのに、原因と結果を逆に行っている。

【根拠と考え方】

本文の順序は「車が出る」後に「店が準備する」です。準備が車を出発させたとは書かれていません。

【☆自己採点の観点】

- ・出来事の順序と因果の両方を確かめたか。

練習問題

問一

【正答】

イ

【根拠と考え方】

イは、一人で完璧に作ろうとして手が止まった筆者が、山下さんの言葉で、みんなで作ればよいと思った変化をまとめています。

問二

【模範解答】

不安で手が止まった点は近いが、全部を山下さんに任せたと書かれていない。

【根拠と考え方】

筆者は不安でしたが、自分で描くのをやめたわけではありません。山下さんの助言を受け、みんなで作ると考え直しています。

【☆自己採点の観点】

- ・一見近い部分と、本文にない付加を分けたか。

問三

【模範解答】

山下さんは絵を失敗と評価しておらず、描き直した主体も筆者ではなく山下さんとされている。

【根拠と考え方】

山下さんは責めず、鳥を描き足しています。「失敗」という評価も、「描き直した」という行動も本文にありません。

【☆自己採点の観点】

- ・ 本文にない評価と、行動の主語のずれを両方書けたか。

問四

【模範解答】

本文は「少し肩の力が抜けた」だけで、完全に自信を持ったとは言いすぎである。

【根拠と考え方】

気持ちが変わった点は合いますが、「完全に」「まったく」は本文の「少し」より強い表現です。

【☆自己採点の観点】

- ・ 合っている変化と、強められた程度を区別したか。

問五

【模範解答】

一人で完璧に描こうとしていた筆者が、みんなで少しずつ作ればよいと考え直した内容に合うから。

【別解例】

筆者の不安と、山下さんの助言による考えの変化を、本文の範囲でまとめているから。

【根拠】

第一段落の手が止まった理由と、第二段落最後の考えです。

【☆自己採点の観点】

- ・ 正答の前半と後半を本文へ対応させたか。

実戦問題

問一

【正答】

イ

【根拠と考え方】

イは、使える部分を残して必要な修理をし、今の活動に使いながら記憶を伝えるという、第二段落から第五段落の流れに合います。

【誤答のずれ】

アは「昔のまま」とし、実際の改修と反対です。ウは参加者の範囲を全員へ広がっています。エは費用を必ず安いとし、保存の範囲もすべてへ広がっています。

問二

【模範解答】

町は現在、昔のままではなく修理して使っており、修理しなかったという内容も加えている。

【根拠と考え方】

第二段落で屋根を直し、断熱材を加えています。選択肢は改修前後の状態を混同し、修理しないという行動を加えます。

【☆自己採点の観点】

・改修前と改修後の違い、本文にない行動の両方を書けたか。

問三

【模範解答】

本文では昔を知らない参加者も多いのに、知っている人の範囲を全員へ広げている。

【根拠と考え方】

第三段落の「知らない人も多い」と、選択肢の「全員」を比べます。

【☆自己採点の観点】

- ・範囲を示す言葉を具体的に比べたか。

問四

【模範解答】

費用が必ず安いとはなく、本文はすべての古い建物を残せないと範囲を限っている。

【根拠と考え方】

第四段落は費用の難しさと、すべてを残せるわけではないことを述べます。

【☆自己採点の観点】

- ・「必ず」という程度と「すべて」という範囲の両方を指摘したか。

問五

【模範解答】

柱や扉は改修前から残るもので、後の催しが原因で生まれたのではなく、因果が逆である。

【根拠と考え方】

古い柱と扉を残したから、改修後の人が以前の使われ方を想像できます。催しが過去の構造を生んだわけではありません。

【☆自己採点の観点】

- ・どちらが先か、どちらが後かを明確にしたか。

問六

【模範解答】

使える柱や扉を残しつつ安全のために直し、今の活動で使うことが、建物の記憶を受け継ぐという中心に合うから。

【別解例】

昔の姿を変えずに置くのではなく、必要な改修をして使いながら記憶を伝えるという全体の流れをまとめているから。

【根拠】

第二段落の改修、第三段落の利用、第四段落の条件、第五段落の中心です。

【必要な要素】

- ・ 使える部分を残して直すこと。
- ・ 今の活動に使うこと。
- ・ 建物の記憶を受け継ぐこと。

【☆自己採点の観点】

- ・ 正答の一部分だけでなく、文章全体との対応を説明したか。

この章のまとめ

選択肢は、まとまりごとに本文と照らし合わせます。

- ・ 誰のことか——主語。
- ・ どこまでのことか——範囲。
- ・ なぜそうなったか——因果。
- ・ どの強さで述べているか——程度。
- ・ いつのことか——時間。
- ・ 本文がその評価をしているか——評価。
- ・ 本文にない内容を足していないか——付加。

正答の根拠だけでなく、誤答がどこまでは近く、どこからずれたかを説明できると、選択肢を精密に比べられます。

第九章 短く要約する

この章で学ぶこと

要約とは、本文の意味を変えずに、大切な内容を短くまとめることです。本文の言葉を切ってつなぐだけではありません。何について述べた文章かという話題、筆者が最も伝えたい中心、中心を支えるために残すべき理由を選びます。

字数が短いほど、残せる内容は変わります。三十字程度なら、話題と中心を一つの関係に絞ります。五十字程度なら、中心に必要な理由や対比を一つ加えます。七十字程度なら、文章全体の条件や変化も含めてまとめられます。

具体例、繰り返し、細かな説明は整理します。ただし、短くするために中心を削ったり、本文より強く言い切ったりしてはいけません。この章では、三十字、五十字、七十字へ段階的に要約します。

例題 三十字程度で中心を残す

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

雨水をためる小さなタンクは、庭の水やりなどに使える。水道の水を使う量を減らせるだけでなく、大雨のときに雨が一度に側溝へ流れ込むのを少し遅らせる働きもある。一つのタンクが受け止める量は大きくなくても、町の多くの場所があれば、雨水を少しずつ受け止める仕組みになる。

【問一】

本文の内容を、三十字以内で要約しなさい。

解答欄

【問二】

要約で残すべき二つの働きを、三十字以内で説明しなさい。

解答欄

【考える順序】

- 一 話題は「雨水タンク」である。
- 二 中心は、ためた水を使うことと、大雨の水を少しずつ受け止めることにある。
- 三 庭や側溝は具体的な場所なので、三十字ではまとめる。

問一

【模範解答】

雨水タンクは、水を再利用し、大雨の流れを弱める仕組みになる。

【別解例】

雨水をためることは、水道の節約と大雨への備えにつながる。

問二

【模範解答】

ためた雨水の利用と、大雨の水が一度に流れるのを遅らせる働き。

【根拠】

「水やりなどに使える」と「一度に側溝へ流れ込むのを少し遅らせる」です。

【必要な要素】

- ・ためた水の利用。
- ・大雨の流れを少し遅らせる働き。

【☆自己採点の観点】

- ・二つの働きを残したか。
- ・一つのタンクだけで洪水を防げる、という言いすぎをしていないか。

確認問題 字数に応じて残す内容を選ぶ

(一) 三十字以内

失敗したとき、私はできるだけすぐに理由を書いておくようにしている。たとえば、忘れ物をしたなら、ただ「忘れた」と書くのではなく、「前の日にかばんを確認しなかった」と書く。原因を言葉にしておく、次に同じ失敗をしないために何をすればよいかが見えやすくなる。

【問】

本文の内容を、三十字以内で要約しなさい。

解答欄

(二) 五十字以内

音読をすると、文章のつながりに気づきやすくなることもある。目で読んでいるだけでは通り過ぎてしまう言葉も、声に出すと少し立ち止まって感じられる。文の切れ目や言葉の調子が分かれると、文章の意味もつかみやすくなる。

【問】

本文の内容を、五十字以内で要約しなさい。

解答欄

(三) 七十字以内

勉強していて疲れたとき、短い休憩を取るとは大切だ。ただし、長く休みすぎると、かえって戻りにくくなることもある。水を飲む、窓を開ける、少し立ち上がる。そのような短い休憩は、気持ちを切り替え、次の作業に向かう助けになる。

【問】

本文の内容を、「ただし」以下の条件も含め、七十字以内で要約しなさい。

解答欄

(四) 五十字以内

地域の掲示板には、催しの案内だけでなく、道路工事やごみの収集日の変更なども掲示される。情報をインターネットで探しにくい人にも、日々の暮らしに必要なことを同じ場所で知らせる役割がある。

【問】

本文の内容を、五十字以内で要約しなさい。

解答欄

練習問題 中心を欠く要約を直す

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

あいさつは、人との関係を急に深める魔法の言葉ではない。「おはよう」と言っただけで、すぐに親しくなれるわけではないし、相手が必ず返事をしてくれるとも限らない。

それでも、あいさつには意味がある。朝、教室で「おはよう」と声をかけることは、相手がそこにいることに気づいているという小さな合図になる。帰るときに「また明日」と言うことも、次に会う時間を少しあたたかくする。

あいさつは、関係を一度に変えるものではない。けれども、相手を大切に思っていることを、日々の中でそっと伝える言葉なのである。

【問一】

本文の内容を、五十字以内で要約しなさい。

解答欄

【問二】

次の要約は、どこが不十分ですか。四十字以内で説明しなさい。

要約例 朝に「おはよう」と言い、帰るときに「また明日」と言うこと。

解答欄

【問三】

次の要約は、どこが本文より強すぎますか。四十字以内で説明しなさい。

要約例 あいさつをすれば、誰とでも必ず親しい関係になれる。

解答欄

【問四】

具体例を一つも使わず、本文の中心を五十五字以内で要約しなさい。

解答欄

実戦問題 七十字で文章全体をまとめる

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 町や村の地名には、土地の特徴を表す言葉が使われていることがある。水の流れ、地面の形、昔あった建物や仕事などが、短い名前の中に残っている。

(二) たとえば、「橋」や「渡し」を含む地名は、今は道路の下を川が流れていたり、昔そこに人の渡る場所があったりしたことを伝える場合がある。「新田」という言葉は、かつて新しく開かれた田畑と関係することが多い。

(三) もちろん、地名だけで昔の姿を決めることはできない。同じ音の地名でも由来が違うことがあり、長い間に漢字だけが変わった場合もある。古い地図や記録、土地の人の話と確かめ合わせる必要がある。

(四) それでも、地名は過去を調べる入口になる。今の景色だけを見ていては気づかない水路や道、土地の使われ方を考えるきっかけをくれるからだ。名前を手がかりに歩くと、何気ない曲がり角にも理由があるように見えてくる。

(五) 地名は、昔の情報をそのまま保存する箱ではない。人が呼び続ける中で音や漢字が変わり、別の説明が重なることもある。だからこそ、一つの由来をすぐ正解とせず、複数の手がかりを比べることが大切である。

(六) 短い地名を注意して読むことは、土地の記憶へ近づく一つの方法になる。地名を答えとしてではなく問いの始まりとして使うと、現在の町の下に重なっている過去を、少しずつ確かめられるのである。

【問一】

第一・第二段落の内容を、四十五字以内で要約しなさい。

解答欄

【問二】

第三・第五段落に共通する注意点を、五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

第四段落で述べられる、地名を調べる意味を、五十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

本文全体の内容を、七十字以内で要約しなさい。

解答欄

【問五】

次の要約は、どこが不十分ですか。四十五字以内で説明しなさい。

要約例 「橋」や「新田」という地名には、昔の川や田畑が残っている。

解答欄

【問六】

問四の要約として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 地名は土地の記憶を調べる入口になるが、由来はほかの手がかりと確かめる必要がある。

イ 地名を見れば土地の過去は必ず一つに決まり、ほかの資料を調べる必要はない。

ウ 地名は昔から音も漢字も変わらないため、過去の情報をそのまま保存している。

エ 地名の由来は現在の町と関係がないので、調べても土地の見方は変わらない。

答（ ）

【問七】

問六の正答が最も適切である理由を、五十字以内で説明しなさい。

解答欄

解答・解説

確認問題

(一)

【模範解答】

失敗の原因を言葉にすると、次の行動へ生かしやすい。

【別解例】

失敗は原因を具体化することで、次の予防につながられる。

【根拠】

忘れ物は具体例です。「原因を言葉にする」と「次に何をするかが見える」を残します。

【☆自己採点の観点】

・話題と中心を一つの関係に絞ったか。

(二)

【模範解答】

音読は、言葉や文の切れ目に注意を向け、文章のつながりと意味をつかむ助けになる。

【別解例】

文章を声に出すと、言葉の調子や文の区切りが分かり、内容を理解しやすくなる。

【根拠】

声に出す行動、気づけること、意味をつかみやすくなる結果を結びます。

【必要な要素】

- ・音読すること。
- ・つながりや切れ目へ気づくこと。
- ・意味をつかむ助けになること。

【☆自己採点の観点】

・音読を声の大きさの練習だけにしていないか。

(三)

【模範解答】

長すぎない短い休憩は、気持ちを切り替え、次の作業へ戻る助けになるが、休みすぎると戻りにくくなる。

【別解例】

疲れたときの短い休憩は作業を再開する助けになる一方、長く休むとかえって戻りにくい。

【根拠】

短い休憩の効果と、「ただし」以下の条件の両方を残します。水を飲むなどの例は削れます。

【必要な要素】

- ・短い休憩の効果。
- ・長く休みすぎる場合の注意。

【☆自己採点の観点】

- ・「休憩は長いほどよい」という意味にしていなか。

(四)

【模範解答】

地域の掲示板は、情報を探しにくい人にも、暮らしに必要な案内を一か所で知らせる役割を持つ。

【別解例】

掲示板は、地域で暮らす人へ、工事や収集日などの日常に必要な情報をまとめて伝える。

【根拠】

催し、工事、ごみの日は例です。誰に、何を、どのように知らせるかを残します。

【☆自己採点の観点】

- ・催しの案内だけへ範囲を狭めていないか。

練習問題

問一

【模範解答】

あいさつは関係を急に深めないが、相手を大切に思うことを日々そつと伝える言葉である。

【別解例】

あいさつはすぐ親しくする魔法ではなく、相手の存在を認める小さな合図になる。

【根拠】

第一段落の限界と、第二・第三段落の意味を対比させます。

【必要な要素】

- ・関係を急に深めるものではないこと。
- ・相手を大切に思う合図になること。

【☆自己採点の観点】

- ・限界か意味の一方だけになっていないか。

問二

【模範解答】

あいさつの具体例だけで、相手を大切に思う合図という中心をまとめていない。

【根拠と考え方】

「おはよう」「また明日」は例です。要約には、それらに共通する意味が必要です。

【☆自己採点の観点】

- ・具体例と中心を区別したか。

問三

【模範解答】

本文はすぐ親しくなれるとは限らないのに、「誰とでも必ず」と強く言いすぎている。

【根拠と考え方】

第一段落の「すぐに親しくなれるわけではない」「必ず返事をしてくれるとも限らない」と反対です。

【☆自己採点の観点】

- ・本文と要約の程度を表す言葉を比べたか。

問四

【模範解答】

あいさつは関係を一度に変えないが、相手の存在を認め、大切に思うことを伝える言葉である。

【別解例】

すぐ親しくなれなくても、あいさつは相手を気にかけていることを日々伝える小さな合図になる。

【根拠】

具体例を除き、限界と意味を一文にまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・「おはよう」「また明日」を使わず、中心を表せたか。

実戦問題

問一

【模範解答】

地名には、水や地形、昔の建物や仕事など、土地の特徴が残る場合がある。

【別解例】

地名の言葉には、昔の川や田畑など、土地の過去が表れていることがある。

【根拠】

第一段落の一般的な説明と、第二段落の「橋」「渡し」「新田」の共通点です。

【☆自己採点の観点】

- ・具体的な地名を並べるだけでなく、共通点をまとめたか。

問二

【模範解答】

地名だけで由来を一つに決めず、古い地図や記録など複数の手がかりと比べること。

【別解例】

音や漢字が変わる場合もあるため、一つの説明を正解とせず、ほかの資料で確かめること。

【根拠】

第三段落の資料との照合と、第五段落の「一つの由来をすぐ正解とせず」です。

【必要な要素】

- ・地名だけで決めないこと。
- ・複数の資料や話で確かめること。

【☆自己採点の観点】

- ・「地名は信用できない」と全面的に否定していないか。

問三

【模範解答】

今の景色だけでは見えない水路や道、土地の使われ方を考える入口になること。

【別解例】

地名を手がかりにすると、現在の町に残る過去の理由へ気づけること。

【根拠】

第四段落の「過去を調べる入口」と、「今の景色だけでは気づかない」以下です。

【☆自己採点の観点】

- ・地名が「答え」ではなく「調べる入口」であることを書けたか。

問四

【模範解答】

地名は土地の記憶を調べる入口になるが、由来を一つに決めず、古い地図や記録など複数の手がかりと比べて確かめる必要がある。

【別解例】

土地の過去を示すことがある地名を問いの始まりとして使い、音や漢字の変化に注意しながら、ほかの資料と合わせて由来を考えることが大切だ。

【根拠】

地名に残る過去、由来を決める際の注意、地名を入口として使う意味を全体から選びます。

【必要な要素】

- ・地名は土地の記憶への入口であること。
- ・由来を一つに決めないこと。
- ・複数の手がかりで確かめること。

【組み立て】

地名の価値を先に示し、「ただし」に当たる注意を後へ加えます。

【☆自己採点の観点】

- ・価値と注意の両方を残したか。
- ・七十字以内に収めたか。

問五

【模範解答】

具体例だけで、地名を調べる意味や、ほかの資料と確かめる必要をまとめていない。

【根拠と考え方】

「橋」「新田」は第二段落の例です。本文全体の中心は、地名を入口とし、複数の手がかりで確かめることです。

【☆自己採点の観点】

- ・不足する二つの中心内容を指摘したか。

問六

【正答】

ア

【根拠と考え方】

アは、地名が過去を調べる入口になる価値と、由来をほかの資料で確かめる必要の両方をまとめています。

【誤答のずれ】

イは由来を「必ず一つ」とし、資料確認を不要にしています。ウは音も漢字も変わるといふ本文と反対です。エは地名から今の町の見方が変わるという第四段落と反対です。

問七

【模範解答】

地名の価値と、由来を一つに決めず複数の手がかりで確かめる注意の両方をまとめているから。

【別解例】

土地の記憶への入口になる点と、ほかの資料との照合が必要な点を、文章全体に即して示すから。

【根拠】

第一・第二・第四・第六段落の価値と、第三・第五段落の注意を対応させます。

【☆自己採点の観点】

・本文全体の二つの柱を説明したか。

この章のまとめ

要約では、字数に応じて残す内容を選びます。

- ・三十字程度——話題と中心を一つの関係に絞る。
- ・五十字程度——中心に必要な理由や対比を一つ加える。
- ・七十字程度——文章全体の条件、注意、変化も必要に応じて残す。

具体例や繰り返しは整理できますが、話題、中心、必要な理由は残します。短すぎて中心を欠く要約、具体例だけの要約、本文より強く言いすぎる要約になっていないか確かめましょう。

第十章 総合問題

この章で学べること

ここまでの章では、指示語、接続語、段落の役割、理由と具体例、物語文の心情、記述答案、選択肢の見分け方、要約のしかたを学んできました。

文章を読むとき、これらの力は別々に使うものではありません。指示語を正確につかみ、接続語で流れを読み、段落の役割を考えながら、筆者の中心となる考えや人物の心情を読み取っていきます。そして、設問に合う形で答えたり、本文に合う選択肢を選んだり、文章全体を短くまとめたりします。

この章では、これまで学んだ読み方を使って、まとまった文章に取り組みます。本文の言葉に戻りながら、一つ一つの問いに根拠を持って答えていきましょう。

総合問題一 説明文を読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私たちは、予定が何も入っていない時間を、少し不安に感じることもある。勉強、部活動、習い事、連絡への返信。やることが多い毎日の中では、何もしていない時間があると、どこかもつたいたないように思える。予定を入れず、急いで何かをしないそのような時間を、無駄だと感じてしまうのである。

(二) 便利な道具が増えたことで、私たちは多くのことを短い時間でできるようになった。調べものも、買い物も、連絡も、以前より速くすませることができる。しかし、そうして空いた時間に、また別の予定を入れてしまうことも多い。時間ができたはずなのに、心が休まるとは限らない。

(三) ある日、私は駅で電車を待っていた。スマートフォンが充電が切れてしまい、することがなくなった。最初は少し落ち着かなかったが、ふと空を見ると、薄い雲がゆっくり流れていた。その雲を見ているうちに、明日の発表で何を最初に話すが、自然に頭に浮かんできた。何もしていないように見える時間にも、心の中では考えが動いていることがあるのだと思った。

(四) もちろん、予定を立てることや、時間を大切に使うことは必要である。けれども、すべての時間を用事で埋めてしまうと、自分の考えや気持ちが静かに動く余地がなくなってしまう。ぼんやりする時間、少し立ち止まる時間、何かを待つ時間。そうした余白の中で、私たちは自分の内側にあるものに気づくことがある。

(五) 余白の時間は、ただ何もしていない時間ではない。考えや気持ちがゆっくり動き、自分を整えるための大切な時間でもある。急いで何かをする時間だけでなく、何もしないように見える時間にも、意味があるのだ。

【問一】

傍線部「そのような時間」とは、どのような時間ですか。三十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

第二段落の「しかし」は、前後の内容をどのようにつないでいますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

第三段落の駅で電車を待つ例は、何を説明するために挙げられていますか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

本文で筆者が最も伝えたいことを、四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 便利な道具が増えたので、私たちは完全に心を休められるようになった。

イ 余白の時間は無駄ではなく、考えや気持ちを整える意味を持つ。

ウ 予定を立てることはすべて悪いので、何も計画しないほうがよい。

エ 何もしていない時間には、心の中でも何も起こらない。

答（ ）

【問六】

問五で選んだ選択肢が最も適切である理由を、四十字以内で説明しなさい。

解答欄

総合問題二 物語文を読む

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

(一) 私は、図書委員の仕事で、新しく入った本の紹介カードを書く係になった。文章を書くことは嫌いではない。けれども、廊下の掲示板に貼られ、知らない人にも読まれるものだと思うと、急に言葉が重く感じられた。

(二) 机の上には、紹介する本と白いカードが置かれていた。私は何度も鉛筆を持ち直したが、最初の一文が決まらなかった。この本のよさを全部伝えなければならぬ。そう思えば思うほど、書き出しが遠くなっていった。そのことに気づくと、私はますます手を止めてしまった。

(三) 同じ図書委員の莉子さんが、私のメモをのぞきこんだ。私は、まだ一行も書けていないことを注意されるのではないかと思った。けれども莉子さんは、「全部説明しなくても、読んだ人が手に取りたくなる一文でいいんじゃない」と言った。そして、私のメモの中にあった「雨音が聞こえそう」という言葉を指さした。

(四) 私は、その言葉を中心にして、もう一度カードを書き始めた。「雨音が聞こえそうな静かな物語です。」短い文だったが、無理に上手にまとめようとしていたときより、その本に近い気がした。書き終えたカードを掲示板に貼るとき、私はまだ少し緊張していたが、最初ほどこわくはなかった。

(五) 次の日の昼休み、掲示板の前で一年生がそのカードを見ていた。「これ、読んでみたい」と小さく言う声が聞こえた。私はすぐに声をかけることができず、本棚を直すふりをした。けれども、胸のあたりが少し温かくなった。

(六) たくさんのことを書くことだけが、伝えることではないのかもしれない。自分が本から受け取った小さな感じを、誰かにそっと渡せることもある。そのことを、私は一枚の紹介カードから教えられた気がした。

【問一】

第一段落で、筆者が「言葉が重く感じられた」のはなぜですか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問二】

傍線部「そのこと」とは、どのようなことですか。三十五字以内で説明しなさい。

解答欄

【問三】

莉子さんの言葉によって、筆者はどのようなことに気づきましたか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問四】

第五段落で、筆者が「胸のあたりが少し温かくなった」のはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

解答欄

【問五】

本文の内容に合うものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 筆者は、紹介カードに本の内容をすべて書かなければならないと最後まで考えていた。

イ 筆者は、莉子さんにすべてを書いてもらい、自分では紹介カードを書かなかった。

ウ 筆者は、短い言葉でも本から受け取った感じを伝えられると気づいた。

エ 筆者は、一年生に声をかけられたため、紹介カードを書くことをやめた。

答（ ）

【問六】

次の選択肢は、本文の内容とどこがズレていますか。四十字以内で説明しなさい。

・ 選択肢…筆者は、一年生が本を読みたいと言ったので、すぐに声をかけて本をすすめた。

解答欄

【問七】

本文全体の内容を、五十字以内で要約しなさい。

解答欄

解答・解説

総合問題一

問一

【模範解答】

予定を入れず、何かを急がずにただぼんやりしている時間のこと。

【解説】

「そのような時間」は、直前に述べられている内容を指しています。第一段落では、予定が何も入っていない時間や、何もしていない時間について述べられています。したがって、予定を入れず、急いで何かをしない時間としてまとめます。

【☆自己採点の観点】

- ・「予定を入れない」が入っているか。
- ・「急いで何かをしない」が入っているか。
- ・単に「無駄な時間」とだけ答えていないか。

問二

【模範解答】

便利さを認めつつ、空いた時間にも予定を入れがちな姿を示している。

【解説】

第二段落の前半では、便利な道具によって多くのことを短い時間でできるようになったと述べています。後半では、そうして空いた時間にも、また別の予定を入れてしまうことが多いと述べています。「しかし」は、便利になったのに心が休まるとは限らない、という流れを作っています。

【☆自己採点の観点】

- ・「便利さを認めている」が入っているか。
- ・「空いた時間にも予定を入れる」が入っているか。
- ・便利さを完全に否定しているように書いていないか。

問三

【模範解答】

雲を眺めて考えが動いた例で、余白の時間から気づきが生まれること。

【解説】

第三段落では、電車を待つ間にスマートフォンが使えなくなり、雲を見ているうちに発表のことが自然に浮かんできた例が挙げられています。この例は、何もしていないように見える時間にも、心の中で考えが動くことを説明しています。

【☆自己採点の観点】

- ・「雲を眺める」が入っているか。
- ・「考えが動く」または「気づきが生まれる」が入っているか。
- ・駅で待ったという出来事だけを答えていないか。

問四

【模範解答】

余白の時間は無駄ではなく、考えや気持ちを動かし、自分を整える時間だということ。

【解説】

本文全体では、予定のない時間を無駄に感じる考えから始まり、便利さによって空いた時間にも予定を入れてしまうこと、そして余白の時間にも考えや気持ちを動かす意味があることが述べられています。第五段落のまとめが中心です。

【☆自己採点の観点】

- ・「余白の時間」が入っているか。
- ・「無駄ではない」が入っているか。
- ・「考えや気持ちを動かす」「自分を整える」が入っているか。

問五

【正答】

エ

【解説】

本文では、余白の時間はただ何もしていない時間ではなく、考えや気持ちがゆっくり動き、自分を整えるための大切な時間でもあると述べられています。したがって、エが最も適切です。

アは、便利な道具によって完全に心を休められるようになったとは書かれていません。イは、予定を立てることをすべて悪いとしている点が本文に合いません。ウは、何もしていない時間にも考えが動くという本文の内容と反対です。

問六

【模範解答】

本文全体の中心である、余白の時間が持つ大切な意味を正確にまとめているから。

【解説】

イは、余白の時間が無駄ではなく、考えや気持ちを整える意味を持つという本文全体の中心をまとめています。本文では、便利さや予定を否定するのではなく、余白の時間にも大切な働きがあると述べています。

【☆自己採点の観点】

- ・「本文全体の中心」が入っているか。
- ・「余白の時間の意味」が入っているか。
- ・イの内容が本文を大きく変えていないことを説明しているか。

総合問題二

問一

【模範解答】

自分の書いた紹介文が掲示板に貼られ、人に読まれると思ったから。

【解説】

第一段落では、筆者は文章を書くこと自体は嫌いではないと述べています。しかし、紹介カードが廊下の掲示板に貼られ、知らない人にも読まれるものだと思うと、急に言葉が重く感じられたとあります。したがって、人に読まれることへの緊張が理由です。

【☆自己採点の観点】

- ・「紹介文が掲示板に貼られる」が入っているか。
- ・「人に読まれる」が入っているか。
- ・文章を書くこと自体が嫌いだったと取り違えていないか。

問二

【模範解答】

本のよさを全部伝えようとするほど、書き出せなくなっていたこと。

【解説】

「そのこと」は、前に述べられた内容を指しています。第二段落では、筆者が「この本のよさを全部伝えなければならない」と考えるほど、書き出しが遠くなったとあります。つまり、本のよさを全部伝えようとするほど書き出せなくなっていたことを指しています。

【☆自己採点の観点】

- ・「一番よい言葉を選ばなければならない」が入っているか。
- ・「書けなくなった」が入っているか。
- ・白いカードが置かれていたことだけを答えていないか。

問三

【模範解答】

全部を説明せず、読んだ人が手に取りたくなる一文でよいと気づいたこと。

【解説】

莉子さんは、「全部説明しなくても、読んだ人が手に取りたくなる一文でいい」と言っています。この言葉によって、筆者は本のよさをすべて説明しようとしなくても、自分が受け取った感じを短い言葉で伝えればよいと気づきます。

【☆自己採点の観点】

- ・「全部を説明しなくてよい」が入っているか。
- ・「手に取りたくなる一文」が入っているか。
- ・莉子さんがすべて書いてくれたという説明になっていないか。

問四

【模範解答】

自分の言葉が本の魅力を伝えられたと感じ、うれしさを静かに受け止めているから。

【解説】

第五段落では、一年生が紹介カードを見て「これ、読んでみたい」と言っています。筆者はすぐに声をかけることはできませんでしたが、自分の書いた言葉が本を手取るきっかけになったと感じ、うれしさを静かに受け止めていると考えられます。

【☆自己採点の観点】

- ・「自分の言葉が伝わった」が入っているか。
- ・「うれしさ」が入っているか。
- ・すぐに声をかけたと取り違えていないか。

問五

【正答】

ウ

【解説】

本文では、筆者は最初、本のよさを全部伝えなければならぬと思って書けなくなりますが、しかし、莉子さんの言葉をきっかけに、短い一文でも本から受け取った感じを伝えられると気づきます。したがって、ウが最も適切です。

アは、筆者が最後まで全部書かなければならないと考えていた点が本文に合いません。イは、莉子さんがすべてを書いたわけではないので誤りです。エは、筆者が紹介カードを書くことをやめたとは書かれていません。

問六

【模範解答】

一年生が本を読みたがる内容は合うが、声をかけたとは書かれていないから。

【解説】

選択肢は、一年生が本を読みたいと言った点では本文に合っています。しかし、本文では、筆者は「すぐに声をかけることができず、本棚を直すふりをした」とあります。したがって、「すぐに声をかけて本をすすめた」という部分が本文とずれています。

【☆自己採点の観点】

- ・「一年生が本を読みたがった」は合うと分かっているか。
- ・「声をかけた」とは書かれていないことが入っているか。
- ・一部だけ合う選択肢に引きずられていないか。

問七

【模範解答】

伝えるとは多くを書くことだけでなく、受け取った感じを相手に渡すことでもあるということ。

【解説】

本文全体では、筆者が本のよさを全部伝えようとして書けなくなるところから始まります。その後、莉子さんの言葉をきっかけに、自分が本から受け取った感じを短い言葉で表せばよいと気づきます。最後には、伝えることは多くを書くことだけではないとまとめられています。

【☆自己採点の観点】

- ・「多くを書くことだけではない」が入っているか。
- ・「受け取った感じを相手に渡す」が入っているか。
- ・紹介カードの出来事だけを並べた要約になっていないか。

この章のまとめ

総合問題では、これまでに学んだ読み方を組み合わせて使います。指示語を見つけたら前に戻り、接続語を見つけたら前後の関係を考えます。段落ごとの役割を見ながら、筆者の中心となる考えや、人物の心情の変化を読み取ります。

記述問題では、設問の聞き方に合わせて答えます。「なぜ」と聞かれたら理由を、「どのようなこと」と聞かれたら内容を、「どのような気持ち」と聞かれたら心情を答えます。選択問題では、一部だけ合っている選択肢や、本文にないことを加えた選択肢に注意します。

大切なのは、どの問いでも本文に戻ることです。なんとなくではなく、本文の言葉を根拠にして考えることが、国語の読解の土台になります。

おわりに

文章を読む力は、一度に身につくものではありません。けれども、本文に戻ることに、言葉と言葉のつながりを見ること、人物の行動から気持ちを考えること、筆者の中心を探すことを続けていくと、少しずつ読み方が変わっていきます。

国語の読解で大切なのは、急いで正解だけを探すことではありません。本文の言葉に立ち止まり、「なぜそう言えるのか」を考えることです。その積み重ねが、自分のことばで考える力につながります。

この冊子で学んだことは、国語の問題だけでなく、人の話を聞くとき、本を読むとき、自分の考えを書くときにも役立ちます。言葉を丁寧を読むことは、世界を丁寧に見ることもつながっているからです。

これからも、文章の中の言葉に耳をすませながら、自分の読み方を育てていきましよう。

奥付

中学生のための国語読解の土台

——本文を根拠に、ことばで考える練習——

改訂完成版

制作・発行 和会塾

改訂日 二〇二六年八月二日

本教材に収録した本文、設問、解答・解説の無断転載、再配布、販売を禁じます。
個人の学習および和会塾の指導で使用するができます。学校、学習塾、団体等で
配布利用する場合は、事前に和会塾へお問い合わせください。

教材についてお気づきの点がありましたら、和会塾ホームページのお問い合わせフ
ォームからお知らせください。